

2026
1月-3月

Vol. 102 No.1

安息日聖書教科



小預言者から学ぶ 見どころ

昔からのメッセージは、今日なお関連する

目次

1. ホセアのやさしい愛する訴え	5
2. 精算の時	10
3. 希望のうちに準備する	15
4. 神の憐れみを心にたくわえる	20
5. ヨエル：献身した使命者	26
6. アモスの準備への召し	31
7. 悔い改めにおける力	36
8. 神の回復のご計画	41
9. わたしたちはすでに何をすべきか知っている！	46
10. 全知なるお方への敬神	52
11. 油断なく神に栄光を帰す	57
12. 終わりの時のできごと	62
13. マラキの最後の訴え	67

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部(P.O.Box 7240 Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科
Vol.102, No.1

編集&発行：
SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Honduran Union,
Rwandan Union Mission,
AMAPI, H. Cibalde

安息日聖書教科は、他のコメントをいつさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

「小」預言者と呼ばれます、彼らのメッセージは意味がないではありません！名前はただ彼らの記した本が短いという事実に由来しています。しかし、これらの力あるメッセージは、協力であり、まっすぐであり、今日に深く関わっています。これこそ今回、世界中の安息日学校の生徒が、恩恵期間の終了とキリストの再臨の準備のために時宜にかなった投資として、これから約3か月間、小預言者たちから学ぶ見どころに焦点をあてる理由です。

小預言者たちは、なめらかなやさしいメッセージを伝えているではありません。全く違います。彼らは木の根元におかれた斧のようです。「神は罪人を甘やかすために使者をお送りにならない。神はきよめられていない者をだまして致命的な安全感を持たせるために平和のメッセージをお送りにならない。神は悪を行う者の良心に重荷をおき、その魂を罪の自覚という矢で刺し通される。」（各時代の希望上巻105）

「神はいつも犯罪を罰するのに忠実であられた。このお方は有罪な者に警告し、彼らの罪を弾劾するために、そして彼らに判決を言い渡すために、ご自分の預言者たちを送ってこられた。なぜ神のみ言葉は、嘲る者たちが嘲笑し、聖徒たちが嘆き悲しむほど、はつきりとした方法で神の民の罪を明らかにするのかと疑問に思う者は、それはすべて彼らを教えるために記されたのであり、彼らが記録された悪を避け、主に仕えた人々の義を模倣することができるためであることを考えるべきである。」（教会への証4巻12）

「品性にあるただ一つの悪い性質、心にいだいた一つの罪深い願望は、ついに福音のすべてを中和してしまう。罪深い願望が満ちると、魂の誤った思い込みを示す。その願いにふけるごとに、神に対する魂の反感が強められる。義務の痛みと罪の楽しみは、サタンが人を自分のわなにつなぎとめるひもである。一つの悪い行いをするよりは死ぬことを選ぶ人だけが、忠実であることを見出されるようになる。」（教会への証5巻53）

小預言者たちは、神の民に目覚めるように、このお方のみ摂理を理解するように、そして自分の心のうちでなされるこのお方の働きを受け入れるようにと求めました。これこそ、わたしたちが聞く必要のあるメッセージです。

「兄弟たちよ、だれに神のみ言葉の真理が開かれてきただろうか。この世界歴史の終わりの場面において、あなたはどの役割を果たすであろうか。あなたはこれらの厳粛な現実に目覚めているであろうか。あなたは天と地においてなされつつある準備という壮大な働きに気づいているであろうか。光を受けたすべての者、預言を読んで聞く機会を持っていたすべての人は、そこに書かれてある事がらに注意を払おう。『時が近づいているからである。』だれひとり今、罪、すなわちこの世にあるあらゆるみじめさの根源と関わらないようにしよう。無気力と愚かな無関心のうちにとどまっていてはならない。あなたの魂の運命を不確かなことにかけてはならない。あなたが完全に主の側にいることを確かめなさい。」（同上6巻404）

これらの教科を学ぶときに、主がわたしたちを導いて下さいますように！

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

ホンジュラス、シゲタペケの本部

ホンジュラスは中央アメリカで 2 番目に大きな国です。43,433 平方マイル (112,492 平方キロメートル) の領土を有し、中央アメリカの中心に位置し、グアテマラ、エルサルバドル、ニカラグアと国境を接しています。南はフォンセカ湾の太平洋、北はカリブ海の大きな入り江であるホンジュラス湾に面しています。人口 1,080 万人のうち、48.7% がカトリック教徒、41% がプロテスタン、8% が無神論者、不可知論者、または無宗教を公言する者、3% がその他の宗教を信仰しています。公用語はスペイン語で、国の輸出品は主に農産物で、次いで電子機器となっています。

SDARM は 1960 年代、ペルー出身のシルベストレ・カバニリヤス兄弟とアルゼンチン出身のフェリペ・ガルシア兄弟の訪問によって誕生しました。長年の努力の結果、そのメッセージは広く伝わり、2016 年にはホンジュラス連合が組織されました。この連合は 3 つのフィールドから構成され、合計 542 人の会員と、いつも頻繁に訪れる約 700 人の常連客を擁しています。



わたしたちのフィールドとユニオン本部の建物は、老朽化のため、年月とともに老朽化しています。未完成の建物もあり、フィールドの一つには管理本部がありません。わたしたちは、オフィス、会議のための会議室、そして宣教学校の運営のための適切なスペースを提供するために、多大な努力を払ってきました。だからこそ、わたしたちは皆様の寛大なご支援をお願いします。共に、真理の灯台として機能する本部を築き、多くの人が感謝の気持ちをもってイエスを知ることができるようという私たちの夢を実現したいのです。

主は、御業の計画を遂行する際に、互いに協力するよう私たちを促されます。それはモーセへの指示に示されています。『イスラエルの人々に告げて、わたしのためにささげ物を携えてこさせなさい。すべて、心から喜んでする者から、わたしにささげる物を受け取りなさい。』(出エジプト記 25:2)。神への献身と犠牲の精神は、いと高き方の住まいを建てるための第一の条件でした。全会衆が一致してこう応えました。『すべて心に感じた者、すべて心から喜んでする者は、会見の幕屋の作業と、そのもろもろの奉仕と、聖なる服とのために、主にささげる物を携えてきた。』(出エジプト記 35:21)

このプロジェクトへの皆様の寛大なご支援に先立って感謝申し上げます。神の祝福がございますように。

ホンジュラスから皆さんの兄弟姉妹より

ホセアのやさしい愛する訴え

暗唱聖句：「わたしは真実をもって、あなたとちぎりを結ぶ。そしてあなたは主を知るであろう。」（ホセア書 2:20）

推奨文献： 教会への証 6 卷 404-410

「今、憐れみのやさしい声がまだ聞こえる間に、あなたが悪を正すのが遅くならない間に、今日と呼ばれる日の間に、もしあなたがこのお方のみ声を聞くならば、あなたの心をかたくなにしてはならない。」（管理職への勧告 99）

1. 困難な目覚めさせるための呼びかけ

日 / 12月28日

a. 神の預言者たちの困難な生涯を述べなさい（ヤコブの手紙 5:10）。

「神が重要な責任を委託してこられた人々は、楽やぜいたくさへと導かれてきたのではなかった。高貴な預言者たち、神に任命された指導者や士師たちは、生活の厳しい現実によって形成された人々であった。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1880年2月19日）

b. 神はご自身とご自分の不忠実な民との間の関係を、どのように描写されましたか（ホセア書 1:1-9; エレミヤ書 3:14; (コリント人への第二の手紙 11:2 参照)。

「聖書では、キリストとキリストの教会との間の神聖で永続的な関係を、結婚の契りで表わしている。主は、厳肅な契約によって、ご自分の民をご自分に結びつけられ、ご自分が彼らの神になることを約束された。そして彼らは、自分たちが神のものとなり、神だけのものになることを誓ったのである。....

教会がキリストに不忠実であって、キリストに対する信頼と愛情を失い、世俗の事物に対する愛を心に抱くことは、結婚の誓いを破ることにたとえられている。主を離れたイスラエルの罪が、この象徴によって語られている。」（各時代の大争闘下 卷 82）

- a. 裁きを宣告された後、どのような希望に満ちた約束が、神からイスラエルに与えられましたか（ホセア書 1:10）。

「神がユダヤ人の心も異邦人の心も同様に変える力を十分に持っておられて、キリストを信じるすべての者に、イスラエルに約束された祝福を授けることがおできになることを教えている…さらに、イザヤは預言した、『もし、万軍の主がわたしたちに子孫を残されなかつたなら、わたしたちはソドムのようになり、ゴモラと同じようになつたであらう。』…」

ユダヤ民族が、ナザレのイエスを拒否したときに、国家としてのユダヤ人に恐るべき運命が宣告されたのであったが、その後の各時代に、多くの気高い、神をおそれるユダヤ人たちが、黙々と苦難に耐えていた。神は、苦難の中にある彼らの心を慰め、彼らの悲惨な境遇をあわれまれた。神は、神のことばを正しく理解するために、一心不乱に探り求める人々の、切なる嘆願の祈りを聞かれた。ある者たちは、彼らの先祖たちが拒否して十字架につけた卑しいナザレ人イエスが、イスラエルの真のメシヤであることを認めるに至つた。長い間、伝説と誤った解釈によって認めることができないでいた身近な預言の意味がわかつたときに、彼らの心は、言いつくせない賜物のゆえに神に感謝した。この賜物は、神が、キリストを自分の救い主として受けいれるすべての者にお与えになるのである。」（患難から栄光へ下巻 62、63）

- b. 使徒パウロは、この慰めの真理を、どのようにこだまさせましたか（ローマ人への手紙 9:25-27）。

「この福音が、十分にユダヤ人に伝えられるときに、多くの者はキリストをメシヤとして受けいれるであろう。牧師たちの中には、ユダヤ人のために働くように召されたと感じる者は、わずかしかいない。しかし、しばしばなおざりにされてきた人々にも、他のすべての人々と同様に、キリストにあるあわれみと希望の言葉を伝えなければならない。

福音の宣教が終結を迎える、これまでおろそかにされていた階級の人々に特別の働きが行われるときに、神は、神の使者たちが、地球の至るところに散在しているユダヤ人に特別の関心を持つことを期待しておられる…」

ユダヤ人の中には、タルソのサウロのように聖書に詳しい人がいて、驚くべき力をもって、神の律法の不变性を宣言する。イスラエルの神は、われわれの時代にこの事を実現して下さる。彼の腕は短かくて、救い得ないのでない。神のしもべたちが、長い間おろそかにされ軽べつされていた人々のために、信仰をもって働くときに、神の救いがあらわれる。」（同上 64、65）

3. よこしまな者や悪人に

火/12月30日

- a. ご自分の民の靈的な腐敗が深刻であったにもかかわらず、神はどのような優しい訴えを彼らにさし伸べられましたか（ホセア書 2:14）。

「キリストが地上におられたときと同じように、敵の占領地が福音によって侵略されると、彼の大軍から激しい反対に直面する。わたしたちに降りかかる戦いは、かつて目撃された中で最も激しいものとなるであろう。しかし、サタンが武装した強い人のように強いものとして表わされても、彼の転覆は完全なものとなり、忠実であることよりも背信を選んで彼に結合していたすべての者は、彼と共に滅びることになる。

抑制する神の御靈が今でさえ、世から引き上げられつつある。ハリケーン、嵐、暴風雨、火事、洪水、海や陸の災害がやつぎばやに続く。科学はこれらすべてを説明しようとする。わたしたちのまわりに色濃くなる神の御子の到来が近いことを告げているるしは、真の理由以外の何かに起因すると考えられている。人々は歩哨である御使が四方の風を引き留め、神の僕らが印されるまで引き留めていることを識別できない。しかし、神がご自分の御使たちに風をそのまま放つようにお命じになるとき、ペンでは描くことができないような戦いの光景がおこるであろう。…

幕が開かれるなら、あなたが神のご目的と運命づけられた世界に降りかかろうとしている裁きを識別できるなら、あなたが自分自身の態度を見ることができるなら、あなたは自分自身の魂と、自分の同胞の魂のために、震えおののくであろう。心を割く苦悩の真剣な祈りが天へ上るであろう。あなたは廊と祭壇との間で泣いて、自分の靈的な盲目と背信を告白するであろう。」（教会への証 6 卷 407, 408）

- b. わたしたちの驚くべき神は、どのように新しい始まりを与え、罪のしみのついた遺産をこえる希望を提供してくださることができますか（ホセア書 2:15；詩篇 130:7, 8）。

「神は憐れみ深い。なぜ犯罪にとらわれている人々は、自分の犯罪の大きさに見合う悔い改めを表さず、憐れみを求めてキリストの許へ飛んでいかず、できるかぎり、自分たちのつけた傷をいやさないのであろうか。」（レビュー・アンド・ヘラルト 1868 年 3 月 24 日）

「罪人がどんなに弱くとも、彼の不法がどれほど多く、またどれほど大きくても、救い主は彼を受け入れて下さる。キリストは、人類ひとり一人を愛しておられる。なぜなら、このお方は代価をもってすべての人を買われたからである。そして、それはなんという代価だったことだろう！」（同上 1903 年 9 月 3 日）

4. リバイバル、そして手を差し伸べること 水/12月31日

- a. 魂が真に悔い改め、自分たちの罪深い道から向きを変えるとき、どれほど深い献身のきずなを持つことができるかを述べなさい（ホセア書 2:16, 17）。

「主は言われる、『その日には、あなたはわたしを『わが夫』と呼び、もはや『わがバアル』とは呼ばない。わたしはもろもろのバアルの名を彼女の口から取り除き、重ねてその名をとなえることのないようにする』（ホセア 2:14-17）。」（国と指導者上巻 265）

- b. この靈的な回復の預言は、どのようにわたしたちの時代に成就するはずですか（ホセア書 2:18-20）。

「この地上歴史の最後の時代において、神の戒めを守る人々との神の契約が更新される。」（同上 265）

「憐れみがまだとどまっている間に、救い主がとりなしておられる間に、わたしたちは永遠のために徹底的な働きをなそう。」（教会への証 6巻 405）

- c. 今日、ホセアとヨハネによると、神の民になる基盤は何ですか（ホセア書 2:23；ヨハネによる福音書 1:12）。

「あなたの隣人を尋ね、彼らの魂の救いに関心を持っていることを示しなさい。あらゆる靈的なエネルギーを行動へと目覚めさせなさい。訪問した人々に万物の終わりが近いことを告げなさい。主イエス・キリストは彼らの心の戸を開き、彼らの思いに長く残る印象を与えてくださる。

男女をその靈的な無感覚から目覚めさせるために奮闘しなさい。彼らに、あなたがいかにイエスを見出し、このお方の奉仕での経験を得て以来、いかに祝福して下さったかを告げなさい。イエスの足下にすわる時に、どのような祝福があなたにもたらされるかを告げなさい。クリスチャン生活にある嬉しさと喜びを告げなさい。あなたの温かい熱心な言葉は、あなたが高価な真珠を見出したことを納得させるであろう。あなたの快活な励ましの言葉が、たしかにあなたがより高い道を見出したことを示すようにしなさい。これが本物の伝道の働きである。そしてそれがなされるとき、多くの者が夢から目覚めるようになる。」（同上 9巻 38）

5. 信仰の実

木 / 1月1日

- 心を尽くして、神の最後の訴えに注意を払う人々の間にまもなく起ころうとしている栄光に満ちた結果を述べなさい（ホセア書 3:4, 5）。

「長く反逆を続けて悔い改めなかつた十部族に対しては、パレスチナにおいて以前の権力を完全に回復する約束は、与えられなかつた。彼らは、時の終わりに至るまで、『もろもろの国民のうちに、さすらい人となる』のであつた。しかし、地上歴史の最後に、神の民に対して行われる最終的回復においては、彼らもそれに参加する特権が与えられるという預言が、ホセアによって与えられた。その時キリストは、王の王、主の主としてお現れになるのである…〔ホセア 3:4、5 引用〕。

約束の地において、イスラエルが神に忠誠をつくしたときに与えられた祝福が、悔い改めて、地上の神の教会に加わるすべての者に回復されるという神の計画をホセアは象徴的言葉によって、十部族に語つたのである。」（国と指導者上巻 265）

『その日にはイスラエルの残りの者と、ヤコブの家の生き残った者とは、……真心をもつてイスラエルの聖者、主にたよ』る（イザヤ書 10:20）。『あらゆる国民、部族、国語、民族』のなかから、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである』という使命に喜んで答える人々があらわれる。彼らは、彼らを地に結びつける すべての偶像を離れて、『天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝』む。彼らは、すべての束縛から解放されて、神の恵みの記念として世界の前に立つのである。神のご要求に対する服従によって、彼らは、『神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける』者として、天使からも、人々からも認められる（黙示録 14:6, 7, 12）。」（同上 266）

個人的な復習問題

金 / 1月2日

- 神はわたしたちの強情さのために、ご自分が受けられた痛みを、どのように描写しておられますか。
- ホセア書にあるどのメッセージが、神のはなはだしい寛容さを表していますか。
- 神はご自分に対して罪を犯してきた人々を、どのように扱われますか。
- あからさまにその実が神から遠く離れていることをあらわしている人々に、わたし
が手を差し伸べるとき、どのような結果となることが可能ですか。
- わたしの生活は実に、どのようにして、神の憐れみに対する記念碑のようになる
ことができますか。

精算の時

暗唱聖句：「わたしの民は知識がないために滅ぼされる。」（ホセア書 4:6, 上句）

推奨文献：　　教会への証 2巻 604-609

「どの時代においても、神の律法を犯せば、同じ結果がそれに伴つたのである。」
(国と指導者上巻 263)

1. 背徳の万軍

日/1月4日

- a. 神はながく憐れみのメッセージを持っておられる一方で、その他、ホセアに何を宣言するよう、お命じになりましたか。またどのように人類の歴史において一度ならず、くり返し適用されましたか（ホセア書 4:1）。

「こうして、イスラエルの民は、バアルとアシタロテを礼拝して、自然の力に最高の敬意を払い、人間を向上させて、高尚にするあらゆるものから関係を絶ち切って、やすやすと誘惑のえじきになってしまった。」（国と指導者上巻 249）

「『法王制の真昼は、世界の真夜中であった。』聖書は、民衆だけでなく、司祭たちにさえほとんど知られていなかった。昔のパリサイ人たちと同様に、法王教の指導者たちは、彼らの罪を明らかにする光を憎んだ。義の標準である神の律法を放棄してしまったので、彼らは無制限に権力を行使し、自由に悪事を働いた。詐欺、貪欲、放とうが広く行なわれた。人々は、富と地位を得るためにどんな罪でも犯した。法王や高位聖職者たちの宮殿は、最も罪深い放とうの現場であった。何人かの法王たちはあまりにも非道な犯罪をおかしたために、世俗の支配者たちが彼らを、許すことのできない極悪な人物としてその地位から退かせようとしたほどであった。ヨーロッパは、幾世紀もの間、学問、芸術、また文化の面で何の進歩もなかった。キリスト教世界は、道徳的、知的マヒ状態に陥っていた。

ローマ教会の権力下にあった世界の状態は、預言者ホセアの言葉の恐ろしくも的確な成就である。〔ホセア 4:6、1、2引用〕。これが神の言葉を捨てた結果であった。」（各時代の大争闘上巻 57、58）

- a. どのようにホセアの警告を与えるメッセージは、神が憎まれる具体的な罪を述べていましたか。また、これはわたしたちの時代にまで、どのようにこだましていましたか（ホセア書 4:2; ルカによる福音書 17:26, 27）。

「イスラエルが、アッスリヤに捕囚になる前の五十年間の罪悪は、ノアの時代、またその他、人々が神を拒否して、全く悪行にふけってしまった各時代の状態とよく似ていた。自然の神よりも自然をあがめ、創造者の代わりに造られたものを礼拝することは、常に最も卑しい罪悪に人間を陥れた……誤った礼拝に陥った人々は、心の防備がくずれ去って、罪に対する防壁を失い、人間の心の邪悪な欲望に負けてしまったのである。」（国と指導者上巻 249）

「非常にはつきりと、キリストは将来における社会の状態がどうなるかをご覧になった。自己放縫が男女を支配するようになることをご覧になった。今日、結婚関係はどうなっているだろうか。それはゆがめられ、汚され、ノアの時代のようになつていなかろうか。離婚につぐ離婚が、新聞に記載されている。これこそ、キリストが洪水の前に『めとり、とつぎなどして』いたと言われたときの結婚である。」（原稿リース 7 卷 56）

「まさにこの罪、すなわち姦淫が、昔のイスラエルに蔓延し、神のご不興を顕著な表れをもたらした。神の裁きは彼らの憎むべき罪の後にすぐ続いた。彼らのうちの幾千もの人々が倒れ、彼らの汚された体は、荒野に放置された。」（厳肅な訴え 142）

- b. 反逆からおこったいくつかの苦い結果、また神のみ旨への従順によって繰り返されるべきはなはだしい祝福を挙げなさい（ホセア書 4:3-5; ヨハネによる福音書 17:3）。

「主はご自分の民に戒めをお与えになった。それらに従うことによって、彼らが自分の身体的に、精神的、道徳的健康を維持することができるためであった。彼らは従順によって生きるべきであった。しかし、神の律法への不従順の確かな結果は、死なのである。」（クリスチヤン教育の基礎 413）

「神の律法への不従順の道を選ぶ者は、自分の将来の運命を決定しているのである。彼は肉にまいているのであり、罪の支払う報酬、すなわち永遠の滅び、永遠の命の反対を刈り取ることになる。神への服従とその聖なる律法への従順は、確かな結果をもたらす。『永遠の命とは、唯一の、まことの神でありますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。』（同上 376）

- a. わたしたちに恵み深くも提供された一つ一つの光線に真剣に注意を払うことが、なぜわたしたち一人ひとりにとって、非常に重要なのですか（ホセア書 4:6）。

「古代イスラエルに対して言われた神のことばは、今日の教会とその指導者たちに対する厳粛な警告である。イスラエルについて主は言われた『わたしは彼のために、あまたの律法を書きしるしたが、これはかえって怪しい物のように思われた』（ホセア書 8:12）。また祭司や教師に主は言われた、『わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨てる……。あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる』（ホセア書 4:6）。

神の警告 になんの注意をも払わずに見すごしてよいであろうか。奉仕の機会を活用しないでよいであろうか。世のあざけり、理性の誇り、人間の慣習や言い伝えの尊重などのために、キリストの弟子と公言する者がキリストに対する奉仕をしないでよいであろうか。キリストの弟子であると公言する者は、ちょうどユダヤの指導者たちがキリストを拒んだように神のみことばを拒むのであるか。イスラエルの罪の結果は、わたしたちの前に明らかにされている。今日の教会は警告に従うであろうか。」（キリストの実物教訓 286）

- b. 聖靈を拒むことの危険性を説明しなさい（マタイによる福音書 12:31, 32）。

「疑いのことばを口に出すことは危険である。すなわち天來の光を疑ったり批判したりすることは危険である。不注意で不敬な批判をする習慣は品性に作用し、不敬と不信の念を助長する。この習慣をほしいままにしていた多くの人々が、危険を意識しないで続けているうちに、ついには聖靈の働きを批判したりこばんだりするようになった。」（各時代の希望中巻 40）

「神が人の心に働くのは聖靈という仲介を通してである。そして人が故意に御靈を拒み、それをサタンからだと宣言するとき、彼らは神が彼らに通信できる通路を切り離すのである。神が喜んで彼らに与えようとされた証拠を否定することによって、彼らは自分たちの心のうちに輝いてきた光を閉め出すのであり、その結果、彼らは闇の中に取り残される。…しばらくこの罪を犯してきた人々は神の子であるように見えるかもしれない。しかし、品性を発達させる状況が生じ、彼らがどのような精神の者であるかを示すとき、彼らが敵の陣地に、彼の黒い旗印の下にいることが見いだされるであろう。

わが兄弟がたよ、御靈は今日、あなたがたを招いておられる。心を尽くして、イエスのもとへ来なさい。あなたの罪を悔い改めなさい。神へ告白しなさい。あらゆる惡を捨てなさい。そうすれば、あなたはこのお方のすべての約束を自分のものとしてあてはめることができる。『わたしを見て、救われよ』というのが、このお方の恵み深い招きである。」（教会への証 5巻 634）

- a. しばしば神はご自分に従うと公言する多くの人々の状態をどのように描写してこれまでましたか（ホセア書 4:7-11, 16）。

「神の民は、わたしたちの目の前にある恐るべき、試練の光景に対して準備ができていない。この堕落した時代の危険と腐敗のただ中にある悪や欲に汚されずに純潔でいる準備ができていない。彼らは義の武具をまとってこなかった。そして蔓延している悪に対して戦う準備ができていない。多くの人々は神の戒めに従っていないのに、従っていると公言している。もし彼らが神のすべての定めに従うことには忠実であったならば、不信者の心に納得をもたらす力があつたことであろう。」（教会への証 2 卷 446, 447）

「信心を公言しながら、自分たちの公言する真理によって聖化されていない人々は、自分の一連の行動を実質的に変えることはない。彼らは神のみ前にそれが忌むべきものであることを知っているが、自分たちの罪のために個々に譴責されるという試練に服さないからである。彼らは他の人々の証によって、自分自身の問題が忠実に自分の前に指し示されていることを認める。彼らは同じ悪をいだいている。直接彼らに対して証が担われたかのように、彼らの罪の行動を続けることによって、自分の良心を犯し、心をかたくなにし、頑固になっている。そのまま続けて、自分たちの罪を捨てることを拒み、また謙遜な告白、悔い改め、謙遜によって自分たちの悪を正すのを拒み、自分自身の道を選んで、彼らは同じ状態になり、ついにはサタンによって意のままに導かれる捕虜となる。彼らは自分の罪を他人から隠すことができ、また神の裁きが見える形で自分の上に下らないで、非常に大胆になるかもしれない。彼らは一見この世で繁栄しているかもしれない。彼らは貧しく、先の見えない死すべき人間をあざむいて、罪の中にいながら、敬神の模範として見なされるかもしれない。しかし、神は欺くことができない。」（同上 447, 448）

- b. この状況に対して切望なさる神のみ心を述べなさい（エレミヤ書 3:14, 15）。

「民が神から背信するのに従って、証の書に対する不信は、着実に増えてきた。それはわたしたちのあらゆる階級、あらゆる分野に及んでいる。しかし、わたしたちの教会がどのようなことを経験しなければならないかをほとんどの人が知らない。わたしは現在、わたしたちが神の寛容の下にいることを見た。しかし、だれもこれほどれくらいう續くのかを述べることはできない。だれも、わたしたちに対してどれほど大きなあわれみが働かされてきたのかを述べることはできない。しかし、心から神に献身している人はほとんどない。嵐の夜の星のように、雲の中でここかしこに輝いているのは、ほんの数人である。」（同上 5 卷 76）

5. 最も緊急な優先事項

木/1月8日

- a. 人はどのように、背信者になるという最悪な決定を避けることができますか（ホセア書 4:17）。

「品性の一つの悪い性質でさえ、心にいだく一つの悪い欲望でさえ、ついには福音の力をことごとく中和してしまう。罪深い願望が蔓延するのは、魂が欺かれていることを示している。その願望にふけるたびに、神に対する魂の嫌悪感が強められる。義務の痛みと罪の喜びは、サタンが自分のわなに人を縛り付けるひもである。一つの悪い行為を行うよりも死ぬことを望む人々だけが、忠実であることを見出されるようになる。」（教会への証 5 卷 535）

「神は一步ずつご自分の民を導いてこられた。このお方は彼らを心の中に何があるかを表すように意図された様々な地点へと導いてこられた。ある人は一つの点で耐えるが、次の点で倒れる。一つの点において進むごとに、心がテストされ、もう少しより厳密に試される。神の民だと公言する者たちが、自分の心がこの厳密な働きに反対するのがわかるとき、主の口から吐き出されなければ確かに克服しなければならない働きがあると考えて間違いない。御使が言った、『神は、ご自分の民の一人ひとりをテストし、試すために、ご自分の働きをますます厳密になさる。』ある人々は一つの点においては喜んで受け入れるが、神が彼らを別のテストとなる点に導かれるとき、それにしり込みして後ろに引きさがる。なぜなら、それが心にいだいている何らかの偶像にまともに当たるのがわかるからである。ここで彼らは何が自分たちの心の中でイエスを閉め出しているかを認める機会がある。彼らは何かを真理よりも高く評価し、彼らの心はイエスを受け入れる準備ができていない。各個人は、偶像を犠牲にし、まことの証人の勧告に注意を払うかどうかを調べるためにある一定期間テストされ、試される。もし彼らが真理に従うことによってきよめられ、自分たちの利己心、誇り、悪い感情に勝利しようとしないなら、神の御使たちには次の任務が与えられている。『彼らは自分の偶像に結び連なった。彼らのなすままに任せよ。』そして御使たちは自分の働きを続け、罪深い特質を征服しないこれらの人々をそのまま悪天使たちの支配に任せるのである。すべての点に導かれ、代価が何であろうと、すべてのテストに耐え、勝利する人々は、まことの証人の勧告に注意を払ってきた。そして彼らは後の雨を受けて、それにより焦点にふさわしい者とされるのである。」（教会への証 1 卷 187）

個人的な復習問題

金/1月9日

1. 神のみ言葉が禁じられ、非難され、あるいは弱められるとき、何が起りますか。
2. 聖書の中に教えられている通りの厳密な結婚の誓約は、どれほど深刻なのでしょうか。
3. 現代の真理のメッセージを正しく評価しないとき、何が起りますか。
4. なぜ、わたしあれか他の人のために書かれた教会への証を研究すべきなのでしょうか。
5. なぜ一つでも知っている罪をそのまま持っていることが危険なのでしょうか。

希望のうちに準備する

暗唱聖句：「さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んでくださるからだ。」（ホセア書 6:1）

推奨文献： ミストリー・オブ・ヒーリング 177-182

「神が神の民を集めるためにみ手を下されるこの集められる時に、真理を伝える働きはその計画されたとおりの結果をもたらすのである。すべての者は一致して熱心にその働きに当たらなければならない。」（初代文集 154）

1. 謾り導かれた熱心さ

日 / 1月 11日

- a. もしわたしたちの行動が神を裏切るならば、恐るべき結果は何ですか（ホセア書 5:4-7；イザヤ書 1:11, 15）。

「もし神の真理がわたしたちの品性をキリストに似たものへ変えていなければ、わたしたちが公言するこのお方についてのあらゆる知識は、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢にすぎない。〔イザヤ 1:10-20 引用〕。

神の戒めを守っていると主張するすべての者は、この問題をよく見て、自分がより多くの聖霊の注ぎを受けない理由がないかを調べなさい。どれほど多くの人々が自分の魂をむなしく高めていることであろう！彼らは自分が神の恩寵のうちに高められているとを考えているが、困窮している人々をなおざりにし、しいたげられている人々の叫びに耳を貸さず、鋭い切りつける言葉をそれとは正反対の扱いを必要としている人々に語る。こうして、彼らは日ごとに自分たちの心のかたくなさによって、神に罪を犯している。…全ての教員は厳密に自分の心を吟味し、自分の一連の行動を調べ、イエスの精神や働きに調和しているかどうかを確かめよう。なぜなら、もしそうでなければ、このお方が全地の裁き主の前に立つとき、なんと言うことができるであろう？…

キリストはご自分の関心を、苦しむ人類の関心と一つにしてこられた。そしてこのお方がご自分の苦しむ人々にあってなおざりにされている間は、神のみ事業の前進のために運営するよう制定されているわたしたちのすべての集まり、任命されたすべての会議、すべての機関は、達成できることがほとんどないのである。『それもしなければならないが、これも見のがしてはならない。』『あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた。』（レビュー・アンド・ハラル 1891年8月4日）

- a. どのような深刻な警告が、神からエフライムとユダに与えられましたか。そして、彼らは危機において、どのような過ちを犯しましたか（ホセア書 5:8-14）。

「不運なイスラエル王国の最後の年月は、アハブ家の治世下における最悪の争闘と不安の時代でさえ見ることができなかつた暴力と流血のはなはだしい時であつた。二世紀以上にわたつて、十部族の王たちは、風をまいてきた。……神の恵みの保管者として地の国々の前に立たなければならなかつた者が、『主にむかつて貞操を守らず』互いに裏切り合つた（ホセア書 5:7）。……

イスラエルの指導者のある者は、彼らが威信を失つたことを痛感して、それを回復しようと望んだ。しかし、彼らは、王国を弱くしたそれらの習慣を捨て去るかわりに、罪悪をほしいままに行つた。そして、時が来るならば、異教徒と同盟結んで彼らが待望している政治的権力を手に入れることができるとうねぼれていた。」（国と指導者上巻 247, 248）

- b. この危機の時に、神は預言者に、どのような希望の言葉と嘆願を宣言するようにお命じになりましたか（ホセア書 5:15; 6:1, 2）。これはわたしたちにとって、ちょうど今どのように当てはまりますか。

「罪人には、多くの悔い改めの機会が与えられた。彼らが、背信の極に達して、最大の必要に迫られていたときに、彼らに対する神からの言葉は、ゆるしと希望の言葉であった。」（国と指導者上巻 250）

「わたしは兄弟がたに目覚めるようにと訴える。靈的な機能は、もし彼らが魂をキリストに勝ち取るために働くせなければ、弱くなつていき、死ぬことになる。キリストが成し遂げるためにご自分の命をお与えになった偉大にして壮大な働きをなおざりにするなら、どんな言い訳ができるよう。

わたしたちは、この地上で過ごすわずかな時を、軽率なことや無益なことに費やしてしまうわけにはいかない。わたしたちは神のみ前に自分の魂をへりくだらせ、すべての心が真理から飲み、それが命のうちに改革を成し遂げるようになることができる。それによって世はこれこそ誠に神の真理であると納得するのである。命がキリストと共に神のうちに隠されるようにしよう。わたしたちが幼子のように主を求め、わたしたちは自分の兄弟姉妹のうちにある、あるいは働きの責任を忠実に果たそうとしている人々のうちにある欠点を拾いあげることをやめ、自分自身の心を神との正しい関係におこうと努める時に初めて、神はご自分の御名の栄光のために、わたしたちをお用いになることができるのである。」（教会への証 9巻 105, 106）

- a. 終わりの時代において、ご自分の教会に対する神の特別な約束は何ですか。なぜそれが必要とされているのですか（ホセア書 6:3）。

「神のみわざが閉ざされる終末の時には、聖霊の導きにより、献身した信徒たちのささげる熱心な努力に、神の恵みの特別なしが伴うのは事実である。種まき時と、収穫のころに東方の国々に降る前の雨、後の雨という比喩を用いて、ヘブルの預言者たちは、神の教会に異常なほど豊かに霊的恵みがさしきれることを預言した。使徒の時代の聖霊の降下は前の雨、またはさきの雨の始まりであった。そして、その結果はすばらしかった。終わりの時まで聖霊はまことの教会に臨在するのである。

地上の収穫が終わりに近くなると、教会を人の子イエスの来臨に備えるために、霊的な恵みが特別に与えられると約束されている。この聖霊の降下は後の雨にたとえられている。クリスチャンは『春の雨の時』にこの特別の力を収穫の主に求めなければならない。」（患難から栄光へ上巻 51）

- b. この祝福をわたしたちが満ちあふれるほどに受けるのを妨げているのは何ですか（ホセア書 6:4-6）。

「悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためににはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していかなければならない。

わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、『慰めの時』と『春の雨（後の雨）』とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかつた。預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従って、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると思い込んでいる人々は、災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。しかし、その時には、そうする時間もなく天の父の前で彼らの執り成しをしてくださる仲保者もおられない。……[黙示録 22:11引用] すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、「慰め」にあづかることができないのを、わたしは見た。」（初代文集 149, 150）

- a. 公言する神の民の不安定さがどのように描写されていますか（ホセア書 7:2, 7-11, 15）。
- b. ホセアの時代におけるどの状態が、今日の教会における靈的な危険と対比されていますか（ホセア書 8:1-3; エレミヤ書 23:1）。

「信心深いと公言する者の中に、罪人を自分たちが持っている罪であるいにかけている人たちがいる。彼らは神の戒めを無視して人の伝統を選び、神の律法をむなしくして背信を促している。彼らの語る下手な言いわけは力なく、自らの魂と他の魂に破壊をもたらす。…

群れを牧する仕事を引き受けた者は、真理の代わりに人々の作り話を提示しているので、最も厳しい裁きが下される。子供たちは立ち上がって親を呪うであろう。光を見て罪を悟っても魂の救いを牧師に任せている教員は神の日には他の魂が彼らの罪をあがなうことができないことを知る。恐るべき叫び声があがる。『わたしは失われた、永遠に失われた』と。人は偽りを説教し真理を非難する牧師を、バラバラに引き裂きたいと感じるであろう。現代に対する純粋な真理は生活の改革を求めるが、自分で真理に対する愛から離れる者について『ああ、イスラエルよ、あなたは自らを滅ぼした』と言うことができる。主は民にメッセージを送られる。『ラッパをあなたの口にあてよ、はげたかは主の家に臨む。彼らがわたしの契約を破り、わたしの律法を犯したからだ。』（SDA バイブル・コメント [E・G・ホット・コット] 4巻 1157）

- c. どのように偶像礼拝と偽りの礼拝が、イスラエルをむしばんでいきましたか。またその結果は何でしたか（ホセア書 8:5, 6）。

「イスラエルの十部族は、今や、ベテルとダンに別の神のための祭壇を築いたことから起こった背信の実を刈り取らなければならなかつた。」（国と指導者上巻 253）

5. 危険な時代

木 / 1月 15日

- a. 種まきと収穫の原則から、どの教訓が教えられていますか（ホセア書 8:7；ガラテヤ人への手紙 6:7, 8）。

「不信の世界は、…神のみ言葉の真理をさげすみ、踏みにじってきた。彼らは衣服の無駄遣いにふけり、自分たちの生涯を浮かれ騒ぎと歓声のうちに過ごした。彼らは風にむかって蒔いた。彼らはつむじ風を刈り取らなければならなかつた。国家の絶望と困惑の時に、自らを完全には世の堕落した感化力とサタンの奉仕に明け渡しては来なかつた人々、自らを神の前に低くし、心を尽くしてこのお方に向きなおり、受入れと許しを見出す多くの人々がいるであろう。

安息日遵守者の中でどんな犠牲も払いたくないと思い、世の感化力に明け渡してきた人々は、テストされ、試されなければならない。終わりの時代の危険がわたしたちに臨み、また自分が予期していなかつた試練が青年たちの前にある。彼らはもつとも苦しい困惑の中に導き入れられることになる。彼らの信仰の真実性が試される。彼らは人の子の来臨を待ち望んでいると公言するが、その中のある者は、不信者にとって、悲惨な模範となってきた。…

心を引き裂くような苦悩の一日がわたしたちの前にあるわたしは鋭い証が担われるべきことを示された。また主の助けにはせ参じる者は、このお方の祝福を受けることを示された。」（教会への証 1巻 268-270）

- b. なぜわたしたちは今、神のみ旨に厳密な注意を払うべき時なのですか（ホセア書 8:12）。

「神の警告になんの注意をも払わずに見すごしてよいであろうか。奉仕の機会を活用しないでよいであろうか。世のあざけり、理性の誇り、人間の慣習や言い伝えの尊重などのために、キリストの弟子と公言する者がキリストに対する奉仕をしないでよいであろうか。キリストの弟子であると公言する者は、ちょうどユダヤの指導者たちがキリストを拒んだように神のみことばを拒むのであるか。イスラエルの罪の結果は、わたしたちの前に明らかにされている。今日の教会は警告に従うであろうか。」（キリストの実物教訓 286）

個人的な復習問題

金 / 1月 16日

- なぜこの終わりの時代に、わたしたちの持っているすべての光に従って生きることが重要不可欠なのですか。
- ちょうど昔の時代のように、何が自分たちの使命からわたしたちの気をそらしているかもしれませんか。
- どの尊い終りの時の約束がわたしの生涯を変えることができるでしょうか。それはなぜですか。
- 神はいつ、またなぜ主の家に向かってわしのように臨むのですか。
- 生活のどの分野において、わたしは世との長引くつながりを切る必要がありますか。

神の憐れみを心にたくわえる

暗唱聖句：「イスラエルよ、わたしはあなたを滅ぼす。だれがあなたを助けることができよう。」（ホセア書 13:9）

推奨文献：　　教会への証 4 卷 186-213

「退けた光、軽んじ、無視した警告、ほしいままにした欲情、神の律法にそむいたことなどはすべて、まかれた種であって、それは必ずその収穫をもたらすのである。」（各時代の大争闘上巻 25）

1. おとずれの日

日/1月18日

a. どの警告が恩恵期間の終わりにまでこだましていますか（ホセア書 9:7）。

「A の心は、神に献身してこなかった。彼は万物の偉大な賦与者に会計報告を出さなければならない能力やタラントを持っている。彼の心は捧げられておらず、彼の生涯はその公言に値しない。それでいながら、彼は 10 年以上も神の神性な働きに近く関わってきた。彼にはなんという光、なんという特権があったことであろう！彼は実質的なクリスチヤン品性を発達させるためのもつとも貴重な機会を享受してきた。エルサレムのためにキリストが泣かれたときの言葉が、彼に当てはまる。『もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの目に隠されている。』A よ、神の報復の時があなたに差し迫っている。『それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである。』

B も同じ種類の思いを持つ一人である。しかし、それほど徹底的に利己的ではなかった。両者とも神を愛するよりも、娯楽を愛している。彼らの行動はまったくクリスチヤン生活と相いれない。彼らは不变性、まじめさ、また神への献身に欠けている。B は、恵みの働きが全く表面的である。彼はクリスチヤンになりたいと願っているが、自己に対する勝利を維持するために奮闘せず、善惡についての自分の確信通りに行動しない。むだな言葉や空しい意図ではなく、行いこそが、神に受け入れられるのである。

A よ、あなたは譴責のうちに、勧告のうちに、警告のうちに、また愛の嘆願のうちにも同様に、神の言葉を聞いてきた。しかし、聞くだけでは十分ではない。『御言を行ふ人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。』流れに身を任せて、群衆と一緒にホサナと叫ぶのは簡単である。しかし、毎日の静かな生活の中で、特別な興奮や高揚がない時に、眞のクリスチヤンのテストがおとずれるのである。」（教会への証 4 卷 187, 188）

- a. 敵はどのようにしばしば信徒たちを破滅へ導きますか（ホセア書 9:8, 9, 17）。

「[サタンは] 利己的で献身していない男女をとらえ、彼らを神の忠実な僕を見張る歩哨にする。彼らの言葉、彼らの行動、彼らの動機に疑問を投げかけ、彼らの譴責や警告に欠点を見つけてつぶやくためである。彼らを通してサタンは疑いと嫉妬を生み出し、忠実な者たちの勇気を弱め、聖化されていない者たちを喜ばせ、神の僕たちの働きを無に帰そうとする。

サタンはしつけられていない子供たちを通してその親の思いに対して大きな力を働かせてきた。親の怠慢の罪が、多くの安息日遵守者の両親に対して、しるしがつけられている。うわさ話と告げ口の精神は、サタンが特別に不和と紛争の種をまき、友だちを別れさせ、わたしたちの立場の真実さに対する多くの人の信仰をむしばむための働きである。兄弟姉妹たちはやたらと欠点や過ち、すなわち彼らが他の人たちの中に、特に神から与えられている譴責と警告のメッセージをひるまず担つてきた人たちの中に存在していると考えている欠点や過ちについて話すのである。

これらの文句を言う人の子供たちは、耳を大きく開いて不満という毒を受け入れる。親はこうして盲目的に子供たちの心に届くかもしれない道をふさぐのである。どれほど多くの家族が日々の食事を疑いや疑問で味付けをしていることであろうか。彼らは自分の友人たちの品性を切り分け、それをおいしいデザートとして彼らに出しているのである。」（教会への証 4 卷 194, 195）

- b. イスラエルの靈的な失敗の根となる原因は何でしたか（ホセア書 10:1; 申命記 8:11-14）。

「イスラエルの人々は神の代表者としての尊い特権を見失っていた。彼らは神を忘れ、聖なる使命を果たさなかった。彼らが受けた祝福は世の祝福とならなかった。彼らは、自分たちが持つすべての有利な状態を、自己を高めるために用いた。彼らは誘惑を免れるために、世から自分たちをしめ出した。偶像崇拜者との交わりの中で異教徒の習慣に従わなかったための予防手段として神がお定めになった制限を、彼らは自分たちと他のすべての国々とを隔てる壁を築くために用いた。彼らは神が彼らに要求された奉仕をささげようとせず、人々を信仰に導くことも、聖なる模範を示すこともしなかった。祭司や役人たちは、儀式尊重主義の型にはまつていった。彼らは律法的宗教に満足していて、他の人々に天の生きた真理を与えることができなくなっていた。」（患難から栄光へ上巻 6）

- a. 神は靈的に反応しないようになったご自分の民に、どのような訴えをなさいますか（ホセア書 10:12；ヤコブの手紙 4:8）。

「わたしたちの教会は靈的な耕作の働きにおいて、やがて収穫するようになるとの希望をもって、協力すべきである。不信という邪惡な心のゆえに、対応しなければならない強情や、聖なる計画や献身した努力の妨害が多くあるであろう。土壤は扱いににくいが、休閑地は耕されて、義の実がまかれなくてはならない。神に愛されている教師たちよ、実行すれば成長するであろう働きを遂行すべきかどうか疑っているかのように、止まつてはならない。弱つても、失望してもならない。涙をもつて蒔く者は、喜びをもつて刈り取るようになる。…あなたは自己に信頼できないことを覚えていなさい。」（教会への証 6 卷 420）

- b. 神はわたしたちが強情な時でさえ、手を差し伸べて下さり、どのようにご自分の民に対するやさしい愛をあらわして下さいましたか（ホセア書 11:1-4）。

「いまイエスは、神のみもとにのぼって、神と共に宇宙の王座についておられるが、その慈悲深いご性質をすこしも失つてはおられない。今日も同じように、やさしい同情に満ちたイエスの心は、人類のすべての苦悩に向かって開かれている。刺されたみ手は、世にあるご自分の民をもつと豊かに祝福するためにきょうもさし出されている。『だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない』（ヨハネ 10:28）。キリストに献身した魂は、キリストの御目には、全世界よりもうといのである。救い主は、ひとりがみ国に救われるためであつても、カルバリーの苦悩を経験されたであろう。主は、ご自分がそのために死なれた魂を決してお捨てにならない。イエスに従う者たちが自分からイエスを離れようとしない限り、イエスは、彼らを固くひきとめておられる。

われわれには、どんな試練のときにも、決してわれわれを裏切られることのない助け主がある。主は、われわれが誘惑に抵抗し、悪と戦い、ついには重荷と悲しみにおしつぶされてしまうがままに、放つておかれない。いまは、イエスは人間の目からかくされているが、信仰の耳は、イエスのみ声が、次のように言われるのを聞くことができる。『恐れるには及ばない、わたしがあなたと いつしょにいるのだ。……わたしは、あなたの悲しみに耐え、あなたの戦いを経験し、あなたの誘惑に会った。わたしはあなたの涙を知っている。わたしもまた泣いたのである。人間の耳に聞かせられないほどの深い悲しみをわたしは知っている。あなたは、自分がうち捨てられた孤独な人間だと思ってはならない。この地上にはあなたの苦しみを心の琴線に感じてくれる人がなくとも、わたしを見、そして生きなさい。』（各時代の希望中巻 280, 281）

- a. 何が、神の憐れみの深さを説明していますか（ホセア書 11:7-9；ルカによる福音書 13:6-9）。

「〔神は〕ご自身の本質を表現しておられるご自分のひとり子さえ、差し出してこられた民を、あきらめなければならないだろうか。神はご自分の御子がわたしたちの罪のために渡されることをお許しになる。このお方ご自身が、いとしいと思う父親の資質を脱ぎ捨て、裁き主の地位を引き受けて、罪を負われるお方に向かわれるのである。

ここに、反逆の人類に対するもっとも驚くべき方法でおのずとあらわれるこのお方の愛がある。」（牧師への証 246）

- b. 神はなぜ預言者をお用いになるのですか。そして彼らはどのように靈的な回復にとって極めて重要なのですか（ホセア書 12:10, 13；アモス書 3:7）。

「預言者たちと主ご自身のこうした明白な言葉を、われわれは、すべての魂に対する神の声として受け入れなければならない。」（国と指導者上巻 292）

- c. イスラエルの悲劇的な終わりにおいてさえ、何が神の公平さを示していますか（ホセア書 13:4-9；14:1）。

「彼らの苦難は、神の直接の命令によって下った刑罰のように言われることがよくある。こうして大欺瞞者は、自分自身の行為をかくそうとしているのである。ユダヤ人は、神の愛とあわれみを頑強に拒否して、神の保護を彼らから退け、サタンが思いのままに彼らを支配するにまかせたのであった。エルサレムの滅亡のときに行なわれた残虐行為は、サタンの支配に応じる者にサタンがどんな執念深い力をあらわすかを示している。

われわれは、自分たちの享受している平和と保護が、どんなに多くキリストに負うものであるかを、知ることができない。人類が全くサタンの支配下に陥らないようにしているのは、神の抑制力である。神が慈悲と忍耐をもって、悪魔の残酷で惡意に満ちた力を止めておられることを、不従順で恩を知らない者たちは、大いに感謝しなければならないのである。しかし、人間が神の忍耐の限度を越えるとき、この抑制は取り除かれる。神は、罪に対する宣告の執行者として罪人の前に立たれるわけではない。しかし神は、神のあわれみを拒んだ者をそのなすがままにされるのである。彼らは、自分たちがまいたものを刈り取らなければならない。」（各時代の大争闘上巻 24, 25）

5. しほむかーあるいは、繁茂するか?

木/1月22日

- a. イエスは、国家としてのご自分の民の運命を、どのように説明されましたか（マタイによる福音書 21:19, 20）。

「イエスは、おなかがすいて、食物をみつけるためにいちじくの木のところへこられたのだった。同様に主は、イスラエル人の中に義の実をみつけようと熱望して、彼らのところにこられたのであった。主は彼らが世の祝福のために実をむすべようには、惜しげもなく賜物を彼らにお与えになった。あらゆる機会と特権が彼らに与えられたが、こんどは主が、ご自分の恵みの働きに、彼らの共鳴と協力を求められた。主は彼らのうちに自己犠牲、同情、神への熱意、同胞の救いに対する魂の底からの熱意を見たいと望まれた。もし彼らが神の律法を守っていたら、彼らはキリストと同じに無我の働きをしたのである。しかし神と人に対する愛は、誇りと自己満足によっておおわれていた。彼らは人に奉仕することをこばんで自らの上に滅びを招いた。彼らは、神が彼らに委託された真理の宝を世に与えなかつた。実のなつていなないいちじくの木を通して、彼らは自分たちの罪とその刑罰とを読みとることができたはずである。救い主ののろいの下にしおれ、枯れしなびて立ち、根のかわいたこのいちじくの木は、神の恵みが取り去られた時にユダヤ民族がどうなるかを示していた。祝福を与えるとしなかつたために、彼らはもはや祝福を受けられないのであった。」（各時代の希望下巻 22, 23）

- b. ホセア書は、神の希望、癒し、また知恵への召しを強調することによって、どのように結論づけていますか（ホセア書 14:4, 5, 8, 9）。

「植物は、神が、その生命をささえるために備えられたものを受けることによって生長する。そのように靈的な成長は、神の力と協力することによって達せられる。植物が土に根をおろすように、われわれは、キリストに根をおろさなければならぬ。植物が、日光や露や雨をうけるように、われわれは、聖靈をうけなければならぬ。われわれがいつも心にキリストを思いつづけているならば、聖靈は『雨のように先の雨と後の雨の地にのぞむように』『われわれに臨まるのである。キリストは、義の太陽として、『翼には、いやす力を備え』てわれらの上に上られるのである。われわれは、『ゆりの花のように花咲き』『園のように栄え、ぶどうの木のように花咲き』とある。（ホセア書 6:3; ミカ書 4:2; ホセア書 14:5, 7）（教育 112）

個人的な復習問題

金/1月23日

1. 神はご自分のおとずれの目に、わたしたちから何を要求なさいますか。
2. 神はなぜイスラエルの単なる外面向的な宗教では満足なさらなかつたのですか。
3. 心の土地を耕す耕作は、わたしたちのために何をなしますか。
4. わたしはこれらの恩恵期間の残った時間に、何に焦点を合わせるべきですか。
5. 神から切り離されるのではなく、祝福されているということを、わたしはどのように確かめることができますか。

ヨエル：献身した使命者

暗唱聖句：「シオンでラッパを吹きならせ。断食を聖別し、聖会を召集し。」（ヨエル書 2:15）

推奨文献：　　教会への証 9 卷 11-18

「神の律法の違反者に怒りと恐怖を語る雲の柱は、このお方の戒めを守ってきた人々にとって、光と憐れみと救出である。」（教会への証 6 卷 404）

1. 将来にあてはまる

日 / 1月 25日

- a. 預言者ヨエルは、どのような 大災害を描写していますか。それはどのようにお将来の出来事に関連していますか（ヨエル書 1:10-12, 17-20; ヨハネの黙示録 16:8, 9）。

「〔第四の〕 災いにおいて、『太陽は火で人々を焼くことを許された。人々は、激しい炎熱で焼かれた』（同 16:8, 9）。預言者たちは、この恐るべき時の地上の状態を次のように描写している。『地は悲しむ。これは穀物が荒れはて…… るためである。…… 野のすべての木はしぶんだ。それゆえ楽しみは人の子らからかれうせた。』『種は土の下に朽ち、倉は荒れ…… る。…… いかに家畜はうめき鳴くか。牛の群れはさまよう。彼らには牧草がないからだ。…… 水の流れがかれはて、火が荒野の牧草を焼き滅ぼしたからである。』『その日には宮の歌は嘆きに変り、しかばねがおびただしく、人々は無言でこれを至る所に投げ捨てる』と主なる神は言われる」（ヨエル書 1:10-12、17-20、アモス書 8:3）

これらの災いは、全世界的なものではない。さもないと、地上の住民は全く滅ぼされてしまうであろう。しかし、それでもこれは、人類史上かつてなかった恐ろしい災いである。恩恵期間の終了する前に人々の上にくだった刑罰には、あわれみが混じっていた。キリストのとりなしの血によって、罪人はその罪にふさわしい罰を受けずにすんだのである。しかし、最後の刑罰においては、あわれみを混じえずに怒りが注がれるのである。その日に、多くの人々は、長い間軽べつしてきた神のあわれみの保護を受けたいと願う。」（各時代の大争闘下巻 403, 404）

- a. 何について、わたしたちは厳肅に心にとめている必要がありますか（ヨエル書1:15, 16）。

「現代は、すべての人間にとって、圧倒的な関心をそそられる時代である。統治者や政治家たち、責任と権威の地位を占めている人々、あらゆる階級の心ある男女は、…何か決定的な大事件がいまにも起ころうとしており、世界が途方もない危機の渦に臨んでいることを認めている。

天使たちは、きたるべき運命について世界に警告し終わるまでは風を吹かせないように、いま戦争の風をひきとめている。しかし、あらしは迫り、いまにも地上に吹き荒れようとしている。神が、天使たちに風をひきとめている手をゆるめるようにお命じになるその時、そこには筆にも口にも表わし得ない戦乱の光景が展開するであろう。

聖書は、実に聖書だけが、これらのことを見正しく観察している。聖書には、世界歴史の最後の大いなる光景、すでに前方に影を投げて、その近づく足音に地をおののかせ、人々の心を恐怖に震えあがらせている事件が明らかにされている。」（教育 212, 213）

- b. 差し迫った危険を考慮し、わたしたちは信徒として、熱意をもって、どのような迅速な行動を取るよう命じられていますか（ヨエル書 1:14; 2:1, 2）。

「この大いなる日に關して神の言葉は、最も厳肅で印象深い言葉で、神の民に、靈的昏睡から目ざめて、悔い改めとへりくだりによって神の顔を求めるよう促している。」（各時代の大争闘上巻 399）

- c. ヨエルの預言はキリストの再臨の日を、どのように予示していますか（ヨエル書 2:3-6）。

「やがて、われわれの目は、東のほうにひきつけられた。それは、人間の手の半分ぐらいの 大きさの、小さい黒雲が現われたからである。われわれはみな、これが人の子のしるしであることを知っていた。……雲の上にはにじがあつた。その周りでは、無数の天使たちが、この上なく美しい歌を歌っていた。雲の上には人の子が座しておられた。彼の髪の毛は白く波打つて肩にかかっていた。彼の頭には、多くの冠があつた。彼の足は火のようを見えた。彼の右手には鋭いかまがあり、左手には、銀のラッパがあつた。彼の目は火の炎のようで、彼の民を心の奥底までさぐつた。そのとき、すべての者の顔は青ざめた。神に拒否された人々の顔は絶望で真っ青になつた。」（初代文集 64, 65）

- a. 神はまごころをもって悔い改める人々に、どのような保証を与えておられますか(ヨエル書 2:12, 13; 詩篇 34:18)。

「神のみことばが命じている断食は、単なる形式ではない。この断食は、食物をとらずに荒布をまとい、頭に灰をふりかけるだけのことではない。真心から罪を悲しんで断食する者は、決してこれを誇示しようとはしないのである。

神がわたしたちに求めておられる断食の目的は、魂の罪のためにからだを苦しめることではなく、わたしたちが罪の嘆かわしい性質を会得し、神の前に心を低くしてその寛大な恵みを受けられるようになる助けとなるためである。神はイスラエルに、「『あなたがたは衣服ではなく、心を裂け。』あなたがたの神、主に帰れ」と命じておられた(ヨエル書 2:13)。

わたしたちが苦行をしても、あるいは自分の行為によって聖徒の受ける嗣業を買い取るものとなると考えたとしても、それは何の役にも立たない。……悔い改めとは自己からキリストへと向きなおることである。そして信仰によってキリストを受け入れ、わたしたちのうちにキリストが生きてくださるようにするとき、よきわざがあらわれる。」(祝福の山 107, 108)

- b. わたしたちが何としても必要としている告白には、何が関わっていますか(マタイによる福音書 6:6; ヨハネの第一の手紙 1:9)。

「あなたの秘密の罪はただ神のみ前に告白しなさい。あなたの事情にどのように対応すべきかを完全にご存知のお方に、あなたの心のさすらいを認めなさい。もしあなたが自分の隣人に悪いことをしたならば、その人に自分の罪を認め、償いをすることによってそのことの実を示しなさい。それから、祝福をわがものとして求めなさい。ありのまま神のみ許に来て、このお方にあなたのすべての弱さを癒していただきなさい。あなたの事情を恵みのみ座に訴えなさい。働きは完全なものとしなさい。神と自分自身の魂を扱うのに誠実でありなさい。もしあなたが真に悔い改めた心でこのお方の身元へ来るなら、このお方はあなたに勝利を与えて下さる。そのとき、あなたは自由について美しい証を担い、自分を暗やみから驚くべき光に招き入れてくださったお方への賛美を示すことができる。このお方があなたを誤解したり、誤って判断したりなさることはない。あなたの間同胞は、あなたを罪から解放し、あなたを悪から洗い清めることはできない。イエスだけが、あなたに平安を与えることがおできになるお方である。このお方はあなたを愛しておられ、ご自身をあなたのために与えて下さった。このお方の大きな愛の心は、『わたしたちの弱さを思いやることができ』る。このお方にとって許せないほど大きすぎる罪とは何か?このお方が救うにはあまりに暗すぎ、あまりに罪に圧倒されている魂とは何か。このお方は恵み深く、わたしたちのうちに功績は探しておられない。むしろわたしたちがまだ罪人であったときに、ご自分の制限のない善をもって、わたしたちの背信を癒し、惜しみなく愛して下さるのである。」(教会への証 5 卷 649)

- a. 神の教会が緊急にとるべき段階を述べなさい（ヨエル書 2:15-17）。

「キリストはすべての牧師、すなわち、品性の完全さに到達していないかもしれないが、最も熱心にキリストのようになろうと努めている人と共におられる。そのような牧師は祈る。彼は廊と祭壇との間で泣き、魂の苦悩のうちに主のご臨在が自分のうちにあるように求めて叫ぶ。そうでなければ、全天が自分を見て、天使たちの筆が彼の言葉、彼のふるまい、そして彼の精神を書き記している中で、彼は民の前に立つことができない。」（牧師への証 143）

「もし幕が引き上げられるなら、もしあなたが神のご目的と絶望的な世界に降りかかるうとしている裁きを識別することができるなら、もしあなた自身の態度をあなたが認めることができるなら、あなたは自分自身の魂と、あなたの人類同胞の魂のためにふるえおののくであろう。心を引き裂く苦悩の真剣な祈りが天へ上るであろう。あなたは廊と祭壇との間で泣き、自分自身の靈的な盲目と背信を告白するであろう。」（教会への証 6 卷 408）

- b. 神はそのような民のささげる熱心な祈りに、どのように答えるかと望んでおられますか（ヨエル書 2:23）。

「敵はそのしもべたちを動かして、神の働きをはなはだしく阻止するような法案を提出するが、主を恐れる政治家たちは、聖天使に動かされて、このような提案に断固として反対する。こうして、数名の者が、悪の強力な潮流を阻止するのである。真理の敵たちの反対は、第三天使の使命がその働きを遂行するために、抑制される。最後の警告が発せられるとき、それは、今主の働きの器になっているこれらの有力者たちの注意をひく。そして、彼らの中のある者は、それを受け入れ、神の民とともに立って、悩みの時を通過するのである。

第三天使のメッセージの宣布に協力する天使は、その栄光で全地を照らすのである。ここに、全世界的で比類のない力を持った働きが 予告されている。1840 年から 44 年に至る再臨運動は、神の力の輝かしいあらわれであった。第一天使のメッセージは、世界の各伝道地に伝えられた。そしてある国々においては、十六世紀の宗教改革以来どの国にもなかつたような大いなる宗教的関心が引き起こされた。しかし、第三天使の最後の警告下における大運動は、これをはるかに超えるものとなるのである。」（各時代の大争闘下巻 381）

- a. ヨエル書 2:28-32 の預言の成就を述べなさい。

「わたしは、あなたがたの信仰と行為の基準として、神のみ言葉を推薦する。われわれは、その言葉によって裁かれる。神はその言葉の中で、『終わりの時に』幻を与えると約束された。それは信仰の新しい基準としてではなくて、神の民の慰めと、聖書の 真理を離れて誤りに陥る人々を正すためである。」(初代文集 160)

1780 年 5 月 19 日は、歴史上『暗黒日』となっている。モーセの時代以来、これほどの濃さと広さと時間的長さをもった暗黒は、記録されていない。目撃者によるこの事件の描写は、その成就の 2500 年前の預言者ヨエルが記録した主の言葉のくり返しに過ぎない。〔ヨエル書 2:31 引用〕。(各時代の大争闘上巻 396)

- b. 平和を望んでいるにもかかわらず、人類はついに、どのような恐るべき運命へと引き入れられますか (ヨエル書 3:9, 10; テサロニケ人への第一の手紙 5:3)。

「世界は戦争の精神にかきたてられている。ダニエル 11 章の預言は、ほとんどその完全な成就へと至っている。まもなく預言の中に語られている悩みの光景が繰り広げられる。」(教会への証 9 卷 14)

- c. 忠実な人々はこの時、どこにいますか (ヨエル書 3:16; 詩篇 91:1-7)。

「恐るべきテストと試練が、神の民を待ち受けている。戦争の精神が地の果てから果てまで国々をかきたてている。しかし、まもなく来ようとしている悩みの時一国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時一のただ中で、神の選民は動かされずに立つのである。サタンとその万軍は、彼らを滅ぼすことができない。なぜなら、力に優れた天使たちが、彼らを保護するからである。」(同上 17)

個人的な復習問題

金 / 1月 30 日

1. ヨエル書 1:15-20 にあらかじめ予表されている災害を引き起こすのは何ですか。
2. キリストの再臨に対して、わたしはどのように答えるべきですか。
3. どのように、またなぜわたしたちは自らを神の前にへりくだらせる必要があるのでですか。
4. 終りの時に、真に神に献身している人々が受ける祝福を述べなさい。
5. なぜわたしたちは、かつてなかったほど、戦争の精神に向かう扇動を避けなければならないのですか。

第一安息日献金 世界総会福祉支部

世界総会福祉支部は、様々な自然災害や人為的な災害で苦しむ人々に救済をもたらすことを目指しています。兄弟たちは火災、洪水、さらには戦争や紛争によって財産を失いました。

自分の働きが破壊されるのを見る時、助けの手が差し伸べられ、思いやりと援助を得られることは、本当に心強いものです。このような災

害を経験した人々は、しばしば、非常に困窮している状況で世話をしてもらったことの喜びを語り、真の靈的家族の一員であることの特権に感謝をしています。

極度の貧困の中で暮らし、良くても一日一食しか食べられない人々もいます。しかし、激しい苦しみの中にあっても、イエスが間もなく再臨し、このすべては過ぎ去るという希望と確信を搖るぎなく持ち続けています。…福祉支部は、そのような人々にも、親切で温かい手を差し伸べています。キリストの言葉「あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイによる福音書 25:40)に基づき、真の宗教とは言葉ではなく、孤児、寡婦、病人、難民への思いやりの実践であるという認識が、わたしたちの活動の指針となっています。寄付をいただいた場合は、速やかに配布し、特に信仰の家族にとって最も切実な必要に応えています。

自然災害で破壊された教会は再建され、火災や洪水、その他の気象災害で破壊された家屋は再建され、家具も新しくなりました。病人は治療を受け、孤児、未亡人、そして困窮する人々は食料と基本的な保護を受けています。多くのことが成し遂げられましたが、ペンテコステの時のように、信仰の家族の中に困窮者が一人もいないという理想には、まだ程遠いのです。

愛する兄弟たちよ、このためにわたしたちは、皆さんの惜しみない、豊かな、そして何よりも愛情深い献金に期待しています。第一安息日献金を捧げる時、神からどれほど多くのものをいただいたかを考えてください。神は皆さんの献金を倍増させ、皆さんと皆さんの家族、そして困難な時に助けを必要とする人々のために祝福に変えてくださいます。

「諸教会がクリスチヤンの一致のうちに共により近づくのは、この実践的な愛を働かせることを通してである。兄弟愛を通して、神への愛が増す。なぜなら、このお方は貧苦のうちにある兄弟を忘れてはおられないからである。そしてこうして感謝のささげ物が神の保護を求めて神の許へ上る。」

神が皆さんを豊かに祝福してくださいますように！

世界総会福祉支部



アモスの準備への召し

暗唱聖句：「イスラエルよ、あなたの神に会う備えをせよ」（アモス書 4:12 下句）

推奨文献： 教会への証 8 卷 329-335

「わたしたちの働きは、神の戒めとイエス・キリストの証を宣布することである。『あなたの神に会う備えをせよ』（アモス 4:12）こそ、世に与えられるべき警告である。それはわたしたち個々人に与えられる警告である。」（セレクテッド・メッセージ 2 卷 116）

I. 神に仕えるか否か？

日/2月1日

- a. ダマスコ、ガザ、ツロ、エドム、アンモン、ラバ、モアブの不法について述べた後、神はユダとイスラエル、すなわちご自分に仕えると公言している者たちに、どの異議を唱えておられますか（アモス書 2:4-8）。

- b. 主は彼らに対するご自分の憐れみについて、また彼らがご自分の憐れみを蔑む結果について、なんと証しておられますか（アモス書 2:9-16）。

- c. 神の信任に対する裏切りがあったとき、何が問われましたか。またどのようにこの原則が人間関係にあてはまりますか（アモス書 3:1-3；詩篇 11:3）。

「いかにして肉の思いが、キリストの思いと同化している思いと調和できるであろうか。一人は肉にまき、自分自身の心の衝動に従って考え、行動している。もう一方は靈にまき、利己心を抑え、傾向に勝利し、自分がそのしもべだと公言している主人に服従して生きようと努めているのである。」（教会への証 4 卷 507, 508）

「どんなに純粋で正しい原則を持っているとしても、信者でない伴侶は、神から引き離す傾向を持っている。（人類のあけばの上巻 186）

- a. わたしたちはなぜ、真に預言の価値を評価できるのでしょうか（アモス書 3:7, 8）。

「『隠れた事はわれわれの神、主に属する』、『表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属』するのである。…神はこれらのことをお与えになつており、神の祝福は、預言の書を祈りのうちに、敬虔な思いで研究する者に伴うのである。」（各時代の希望上巻 288, 289）

- b. 悲しいことに、神の民だと公言する者が、しばしばこのお方をどのように扱いますか（アモス書 4:4-11）。

「『主はイスラエルを擊って、水に揺らぐ葦のようにし』……

それでも、主は、彼らを主に対する忠誠に引きもどすために、なし得る限りのことをまずしたうえでなければ、イスラエルをお捨てにならなかつた。王たちが次々と天の神に大胆に反逆してイスラエルをさらに邪悪な偶像礼拝におとしいれていた長い暗黒時代を通じて、神は、背信した人々に、次々と使命をお送りになつた。神は、預言者たちによって、背信の潮流を止め、神に立ち返るようにあらゆる機会を彼らにお与えになつた。王国分裂後の時代に、エリヤとエリシャが生存して働き、ホセア、アモス、オバデヤなどのあわれみに満ちた訴えが國中に聞こえるのであつた。罪から人々を救う神の大いなる力についての気高い証言を与えることなくして、イスラエル王国は放棄されてしまうのではなかつた。」（国と指導者上巻 79）

- c. アモスのように、どのメッセージをわたしたちは恐れることなく、ちょうどバプテスマのヨハネがしたように担うべきですか（アモス書 4:12 下句；マタイによる福音書 3:1, 2）。

「キリストがまもなく来されることを信じる民として、わたしたちには担うべきメッセージがある。『あなたがたの神に会う備えをせよ』（アモス 4:12）。わたしたちのメッセージは、ヨハネのメッセージのようにまっすぐでなければならない。彼は王をその惡のために譴責した。それが自分の命を危険に陥れても、彼は神のみ言葉を宣言することにためらわなかつた。そしてこの時代においてわたしたちの働きは同じように忠実になされなければならない。

ヨハネが伝えたようなメッセージを伝えるためには、彼が持っていたような靈的な経験を持たなければならない。同じ働きがわたしたちのうちになされなければならない。わたしたちは神をながめ、ながめるうちに、自己を見失わなければならない。」（教会への証 8巻 332, 333）

- a. なぜ神は宇宙において唯一無二であり、どの熱心な訴えが、柔軟な者に最高のものを与えたいという神の熱烈な願望を示していますか（アモス書 4:13; 5:6-9, 14）。
 - b. アモスがこれらの真理を分かち与えたとき、彼はどのように取り扱われましたか。これらの警告や訴えに直面するとき、一般的な結果はどのようなものですか（アモス書 5:10, 15-18）。
- 「この〔アモスの〕招きの言葉を聞いた人々の大部分は、それによって利益を受けることを拒んだ。」（国と指導者上巻 252）
- c. 生活様式に関するどのような譴責が、目覚めの招きとなるべきですか（アモス書 6:1, 3-7）。

「だれかがしなければ、魂が滅びるままになる不快な義務がある。クリスチャンはこれらの義務を行うことがどんなに不快であろうと、そこに祝福を見出すであろう。キリストは純潔と比類のない栄光の住まいから、犯罪、暴力、惡の焼き印を押され、暗くされた世界に人間のあいだで人間として住むために来られるときに、ご自分の身に不快な仕事を引き受けられた。このお方は魂を救うためにこれをなさった。そしてそのような驚くべき愛と比類のないへりくだりの対象となる者が、利己的な安樂の生活を許されるのであろうか。彼らは自分自身の楽しみを選び、自分自身の傾向に従い、やみの中にいる魂を、救うために勞するとすれば失望と拒絶に直面するからといって、滅びるがままに放つておくのだろうか。キリストは人間の贖いのために無限の代価を支払われた。それでありながら、その人が『主よ、わたしはあなたのぶどう園では働きません。どうか、それを免除してもらえませんか』と言うのだろうか。

神はシオンで樂にしている人々に起きて働くよう召しておられる。彼らは主人の声を聞くだろうか。このお方は、祈る忠実な働き人、あらゆる水のほとりにまく働き人を求めておられる。このように働く人は、いかに試練が、イエスの御名と力によって断固として耐えたとき、信仰に堅固さを与え、勇気を新たにするかに驚かされるであろう。へりくだる従順の道には、安全と力、慰めと希望がある。しかし、最終的にイエスのために何もしない人々は報いを失うであろう。弱い手は力強いお方にすがることができず、弱いひざは逆境の日に支えることができないであろう。聖書を読む者やクリスチャンの働き人は栄光に満ちた賞与を受け、『良い忠実な僕よ、よくやった。…主人と一緒に喜んでくれ』というのを聞くであろう。」（教会への証 4巻 76）

- a. アモスを通して与えられた神の訴えは、偶像礼拝者である祭司アマジヤに歓迎されなかったことを何が明らかにしていますか（アモス書 7:10-13）。

「神の使者たちの言葉は、悔い改めない人々の邪悪な欲望とは非常に異なっていたので、ベテルの偶像礼拝の祭司は、イスラエルの王に使者をつかわして、『イスラエルの家のただ中で、アモスはあなたにそむきました。この地は彼のもろもろの言葉に耐えることができません』と言ったほどであった（アモス 7:10）。（国と指導者上巻 252）

「予告されたこれらの刑罰は、しばらくの間、止められた。そして、ヤラベアム二世の長い治世の間、イスラエル軍は、大勝利を収めた。しかし、この一見、繁栄と思われた時においても、悔い改めない者たちの心には、なんの変化も起こらなかった。そして、ついに次の宣告が下されたのである。『ヤラベアムはつるぎによつて死ぬ、イスラエルは必ず捕えられて行つて、その国を離れる』（アモス 7:11）。

この大胆な宣言も、王や人々に何のききめもなかった。彼らは、このようにかたくなになっていたのである。」（国と指導者上巻 254）

- b. アモスはどのように果敢に敵意あるアマジヤの言葉に応えましたか。またどのように預言者の言葉は後に成就しましたか（アモス書 7:14-17；歴代志上 5:25, 26）。

「背信した部族に対して語られた言葉は、文字通りに成就した。しかし、王国の崩壊は、徐々にやって來た。……

アッスリヤの王テグラテビレセルは、イスラエルに侵入して、ガリラヤとヨルダンの東に住んでいた部族から多くの捕虜を連れ去った。『ルベンびとと、ガドびとと、マナセの半部族』と、その他に、『ギレアデ、ガリラヤ、ナフトリの全地』の住民たちが、パレスチナを遠く離れた異教の地に散らされたのである（歴代志上 5:26、列王紀下 15:29）。

北王国は、この恐るべき一撃から二度と立ち上がることができなかつた。あとに残つた弱者たちは、すでに実権は失つたけれども、政府の形態を保つことができた。ベカの次には、ただもうひとりの王ホセアが続いただけであつた。」（国と指導者上巻 254, 256）

- c. 神は公言する信徒の心のうちにある緩みに単純に目を閉じてくださるだうと思 いこむよう誘惑される時、わたしたちは何を思い出すべきですか（アモス書 8:1-7；ヘブル人への手紙 4:12）。

5. 今までの中で最悪の飢きん

木/2月5日

- a. まもなく来ようとしている靈的な飢きんの光景を描写しなさい（アモス書 8:3, 11, 12）。

「世界は、福音の欠乏のために滅びつつある。神のみことばのききんがくる。人間の言い伝えをまぜないでみことばを説教するものはほとんどいない。」（キリストの実物教訓 208）

「〔アモス 8:3 参照〕。〔黙示録 16 章〕の災いは、全世界的なものではない。さもないと、地上の住民は全く滅ぼされてしまうであろう。しかし、それでもこれは、人類史上かつてなかつた恐ろしい災いである。」（各時代の大争闘下巻 404）

「神のみことばを尊んでいなかつた人々が、海から海へ、北から東へとさすらいながら、神のみことばを求めて、あちらこちらへと急いでいた。天使は言った。『あの人たちは、神のみことばを見つけることができない。地にはききんがある。それは、食物に飢え、水にかわくききんではなくて、神のみことばを聞くことのできないききんである。彼らは、神からただ一言のおほめのことばをいただくことさえできるなら、何ものも惜しまないだろう。しかし彼らは飢え渴きつづけねばならない。彼らは来る日も来る日も救いを軽んじ、天の宝や勧めよりも、この世の富やこの世の快樂を大事にしていた。彼らはイエスをこばみ、彼の聖徒たちをあざけつた。けがれたものはいつまでも、けがれたままなのだ』と。

災害の結果に苦しんで、悪人たちの多くは怒りに燃えた。それは恐ろしい苦悶の光景だった。親は子供たちを激しく非難し、子供たちは親を、兄弟は姉妹を、姉妹は兄弟を非難していた。『あなたがわたしに真理を信じさせまいとしたのだ。そうでなければ、こんな恐ろしい目に会わずにすんだものを』と言って、大声で泣きわめくのが、四方から聞こえた。人々は、激しい憎しみをもって牧師たちに向かい『あなたは、わたしたちに警告してくれなかつた。あなたは、全世界の人が悔い改めて救われる時が来ると言つたではないか。あなたは、平和だ、平和だと叫んで、恐怖心の起きるたびに、それを静めてしまつて、こんなことになるとは言わなかつたではないか。わたしたちに警告する人があると、あれは狂信者で、わたしたちを滅ぼす悪い人たちだと、あなたは言つたではないか』と言って、彼らを責めた。しかしあたしは、牧師たちも神の怒りをまぬかれないのを見た。彼らの苦しみは、人々の苦しみよりも十倍も激しかつた。」（初代文集 454-456）

個人的な復習問題

金/2月6日

1. 関係の中にあるべき調和のために、何が必要ですか。
2. わたしが「火の中から取り出した燃えさし」となるためには何が必要ですか。
3. アモスはなぜイスラエルにいる多くの人々の生活様式を譴責せざるを得なかつたのですか。
4. 精霊を受けた源から好ましくない知らせが届くとき、わたしは何をしなければなりませんか。
5. アモス書 4:11, 12 の現実から、わたしはどの警告に注意を払うべきですか。

悔い改めにおける力

暗唱聖句：わが魂がわたしのうちに弱っているとき、わたしは主をおぼえ、わたしの祈はあなたに至り、あなたの聖なる宮に達した。（ヨナ 2:7）。

推奨文献： 初代文集 437-442
教会への証 5巻 62-84

「教会の運命がかかっている厳粛なあかしが全く無視されないとしても、軽視されている。このあかしは、深い悔い改めを呼び起こすべきものである。それを真に受け入れるすべての者は、それに従って清められるのである。」（初代文集 438、439）

I. 選別するふるい

日/2月8日

- a. あまりに多くの悪が善と混じりあっているために、神は何をなさいますか（アモス書 9:9）。

「わたしは、わたしが見たふるいの意味をたずねた。そして、それは、ラオデキヤ教会へのまことの証人の勧告が生じさせた率直なあかしによるものであることを、わたしは示された。これは、受ける者の心を動かして、高く旗をかけさせ、率直な真理を語らせる。ある者は、この率直なあかしを聞くにたえない。彼らは、それに反対して立ち上がる。そして、これが、神の民の間にふるいが行われる原因となるのである。」（初代文集 438）

「神の民だと公言する者の中に、堕落した心がある。しかし、彼らはテストされ、試されることになる。すべての人の心を読まれる神は、人々がしばしば少しも疑つていなかつた闇の隠れた事に光を当て、真理の進展を妨げてきたつまずきの石が取り除かれるようになさる。そして神はご自分の定めと裁きを宣言するために清く聖なる民をお持ちになるのである。」（教会への証 1巻 333）

「『神はご自分の民をふるっておられる。このお方は清く聖なる教会をお持ちになる。わたしたちは人の心を読むことはできない。しかし、主は教会を純潔に保つ手段を提供してこられた。神の民と共に生きることができない堕落した民が起こってきた。彼らは譴責を蔑み、正そうとしない。彼らには自分たちのものが、不義の戦いであることを知る機会があった。彼らには自分の悪を悔い改めるための時間があった。しかし、自分が死ぬにはあまりにも愛しかつたのである。』」（同上 99）

- a. 神は誇り高い者たちをどのように扱うことがおできになりますか（アモス書 9:2；オバデヤ書 1:3, 4）。

「自己称揚は、危険な要素である。それはさわるものをみな汚す。それは誇りの結果であり、あまりにも巧妙に働くため、見張っていないかぎり、思想を所有し、行動を支配するようになる。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホット・コメット]7巻 962）

- b. ニネベはどのような種類の町でしたか。そして預言者ヨナは、神がそこへ宣教するよう任命されたときに、何をしましたか（ヨナ書 1:1-3）。

「ヨナは、この任命の困難さと、一見不可能に思われるところから、この召しが賢明かどうかを疑うように誘惑された。人間的見地からするならば、あの高慢な町に、このような使命を宣言しても、何の益するところもないようと思われた。彼は、自分の仕えている神が、全知全能の神であることを、一時忘れたのである……

ヨナは、この任命が与えられて、大きな責任を負わせられたのであった。しかし、彼に行けと命じられたおかたは、彼のしもべを支え、彼に成功を与えることがおできになるのであった。もしヨナが、何の疑いもはさまずに従ったならば、彼は多くの苦い経験に遭うこともなく、豊かに祝福されたことであろう。しかし、ヨナが失望に陥ったときにも、主は、彼をお見捨てにならなかつた。種々の試練と不思議な摂理によって、神とつくることのない神の救いの力に対するヨナの確信は、回復されるのであった。」（国と指導者上巻 233）

- c. 神はしばしば、どのようにわたしたちの道を妨げることによって、ご自分の愛を表されますか（ヨナ書 1:4, 7-12）。

「あなたの道は右も左も囲まれて、あなたの進展は妨げられ、地獄へ向かつた。主はあなたの手に負えない扱いにくい精神をご自分に従わせるように導いてこられた。正義と憐れみを混ぜることにより、あなたは悔い改めへと導いてこられた。ヨナのように、あなたは現在の義務から海へと逃げた。神はあなたの道をご自分のみ摂理の災難によって囲まれた。」（教会への証 2巻 423）

- a. 神の全能は、どのように水夫たちに示されましたか。また彼らはどのように反応しましたか (ヨナ書 1:13-16)。
- b. ヨナのための神のご計画は何でしたか。そして、逃亡者は、魚の腹の中にいるあいだ何を祈っていましたか (ヨナ書 1:17; 2:1-4)。
- c. 神に対するヨナの悔い改めの深さを述べなさい (ヨナ書 2:5-9)。主はご自分のへりくだる子に、どのようにお答えになりますか (ヨナ書 2:10)。

「ついに、ヨナは、『救は主のもの』であることを学んだ (詩篇 3:8)。彼が、悔い改めて、神の救いの恵みを悟ったときに、救いが与えられた。ヨナは、大いなる淵の危険から解放されて、陸地に吐き出されたのである。」(国と指導者上巻 237)

- d. わたしたちは、新約の若い伝道者の行動と似て、ヨナがとった新しい行動から、どのように励ましを受けることができますか (ヨナ書 3:1-3; 使徒行伝 15:36-39)。

「[バルナバ]は、経験のないマルコには無理もないことと思っていた。そして、彼は、キリストのために役立つ働き人になるにふさわしい資質を、マルコが備えていることを見て、マルコにこのまま伝道を放棄させてはならないと考えていた。このマルコへの配慮は、何年かのうちに豊かに報われた。この若者は主のために、また困難な伝道地で福音使命を宣べ伝える働きに、惜しみなく献身したからである。」(患難から栄光へ上巻 182)

「時は短い。そしてあなたがなすことは速やかになされなければならない。時を贅おうと決心しなさい。あなた自身の楽しみを求めてはならない。自ら奮起しなさい！心に新たなる目的をもって働きにとりかかりなさい。主はあなたの前に道を開いて下さる。キリストの分野で、柔軟と心のへりくだりをもって、このお方に力をより頼み、働きをなすために可能なすべての努力を払いなさい。主があなたがなすように与えて下さった働きを理解しなさい。そうすれば神に信頼しつつ、あなたは力から力へ、恵みから恵みへと前進することができる。あなたは、日が続く間、あなたの民のために、勤勉に、辛抱強く働くことができる。なぜなら、だれも働けない夜が近づいているからである。」(教会への証 9巻 200)

- a. 神に従うために、ヨナが今必要としている勇気を何が明らかにしますか（ヨナ書3:4）。

「ニネベは、その物質的に繁栄すると共に、犯罪と不正の中心地であった。靈感は、ニネベを『血を流す町。その中には偽りと、ぶんどり物が満ち』ているとその特色を描写している。預言者ナホムは、象徴的言葉を用いて、ニネベを残忍な飢えた獅子にたとえている。『あなたの悪を常に身に受けなかつたような者が、だれひとりあるか』（ナホム書3:1、19）。（国と指導者上巻232）

- b. 神がどのようにヨナの働きを力強く祝福されたかを述べなさい。そしてなぜわたしたち自身、ニネベのとった決心のために目覚めるべきなのかを説明しなさい（ヨナ書3:5-10）。

「ニネベは、悪に染まつたとは言っても、全く罪悪に満ちてしまつたのではなかつた。『すべての人の子らを見』られるかた、そして、『もうもろの尊い物を見』されるおかたは、その町の多くの人々が、より良くより高尚な何物かを得ようとしており、もし生ける神を知る機会が与えられれば、その悪い行いを捨てて、神を礼拝するようになることを、ごらんになった（詩篇33:13、ヨブ記28:10）。」（同上）

「ヨナが、ニネベの町で、四十日のうちに町が滅ぼされると宣言したとき、主はニネベの住民の悔い改めを受け入れて、彼らの恩恵期間を延長された。しかし、ヨナのメッセージは、神から送られたものであった。そして、ニネベは、神のみここに従つて、試みられたのである。」（各時代の大争闘下巻114、115）。

「忠実で堅固で真実な説教者たちが、感謝の念をいだかないわたしたちの諸教会に平和の福音を提供する最後の人となるかもしれない。破壊者たちはすでにサタンの手の下で訓練し、あと数人の旗手たちが自分の持ち場を離れるのに取つて代わり、主が平和を語つておられないときに『平和だ、無事だ』という偽りの預言者の声をもつて待つばかりになっているかもしれない。わたしはめつたに泣かないが、今わたしは自分の目が涙でぐもるのがわかる。涙がわたしの記している紙の上に落ちている。まもなく、わたしたちの間にあるすべての預言がやみ、民の心をかき立てていた声がもはや彼らの肉の眠りを起こすことがなくなるであろう。

神がご自分の異なつた働きを地上になされると、聖なるみ手が契約の箱をもはや担わなくなるとき、苦惱が民の上におとずれる。ああ、あなたが、ただあなたが自分の平和に属する事ががらを知ってさえいれば！ああ、わたしたちの民が、ニネベのように、力を尽くして悔い改め、心を尽くして信じ、神がご自分の怒りを彼らから転じて下さるように。」（教会への証5巻77、78）

5. 今日ふたたびニネベが

/日2月12日

- a. ヨナの人間的な弱さは、再びどのようにあらわれましたか（ヨナ書 4:1-3）。

「ニネベは、邪悪ではあったが、荒布をまとい、灰の中に座して悔い改めたので、神は町を滅ぼすことをおやめになった。それを知ったヨナは、神の驚くべき恵みをまず第一に喜ぶべきであった。しかし、彼は、そうせずに、自分が偽預言者であると思われるのではないかとばかり心配したのである。彼は、自分の名声を守ることに心を奪われて、その悲惨な町のなかの人々に、大きな無限の価値のあることを忘れていた……」

彼は、ふたたび、疑惑の念にかられて、またもや、失望の淵に沈んでしまった。」
(国と指導者上巻 238、240)

- b. ヨナとは違って、わたしたちはどのように魂が悔い改めたときに真に喜ぶことができますか（ヨナ書 4:4, 11）。

「これは、今日の神の使者たちに対する教訓である。諸国の都市は、古代のニネベと同様に、真の神の性質と目的とを知らなければならない。キリストの使者たちは、人々の心から、ほとんど忘れ去られてしまったより高貴な世界を彼らに示さなければならない。」（同上 242）

「大都会における神の使者たちは、救いのよきおとずれを伝える一方において、当面しなければならない罪悪、不正、墮落などについて失望してはならないのである。主は、罪悪に満ちたコリントにおいて使徒パウロにお与えになったのと同じ言葉をもって、こうしたすべての働き人を励まされるのである。『恐れるな。語りつけよ、黙っているな。あなたには、わたしがついている。だれもあなたを襲って、危害を加えるようなことはない。この町には、わたしの民が大ぜいいる』（使徒行伝 18:9、10）……暴力と犯罪に満ちたどの町においても、正しく教えられるならば、イエスの弟子になることができるものが多くいるのである。」（同上 244）

個人的な復習問題

/日2月13日

1. なぜふるいを通じた分離が必要なのですか。
2. わたしの生活におけるどのような証拠が、わたしではなく、神が支配しておられることを明らかにしてきましたか。
3. 神はわたしの言うことをお聞きになることはできないと考えるよう誘惑されるとき、世の試練は何を教えますか。
4. ニネベは後に滅ぼされましたか、なぜ40日間のうちにはそれが起こらなかったのですか。
5. わたしは近くで邪悪な町の中にいる魂について、何を心にとめている必要がありますか。

神の回復のご計画

暗唱聖句：「わが民よ、わたしはあなたに何をなしたか、何によってあなたを疲れさせたか、わたしに答えよ。わたしはエジプトの国からあなたを導きのぼり、奴隸の家からあなたをあがない出し」（ミカ書 6:3、4 上句）

推薦文献： 各時代の大争闘上巻 321－336

「わたしたちを造られたお方が違反者に嘆願されたほど真剣に、誤った子供に嘆願した地上の親は一人もいない。」（教会への証 8巻 275）

I. ユダにある危機

日/2月15日

- a. アハズが王位についたとき、ユダにはどのような種類の事態が起こっていましたか（列王記下 16:2-4）。

「アハズが王位につくことによって、イザヤとその仲間たちは、ユダ国内において、これまで当面したこともない恐るべき事態に直面することになった。これまで偶像礼拝の習慣の魅力に抵抗してきた人々の多くが、異教の神々の礼拝に参加するよう説き伏せられていたのである。イスラエルの君たちは、彼らに負わせられた信任にそむいていた。偽りの預言者が起こって、人々を背信に導く言葉を語った。祭司の中には、価をとて教える者さえあった。それにもかかわらず、背信の指導者たちは、なお、神の礼拝の形式を保持して、自分たちは神の民に属すると主張していた。」（国と指導者上巻 287）

- b. 神はこれらの忌むべきことに対して、どのように応じられましたか（エレミヤ書 7:30-34）。

「神の性質をゆがんで考えたために、異邦民族は、神の恵みを得るには人身御供（ひとみごくう）が必要だと信ずるようになった。そして、最も恐るべき残虐がいろいろな形の偶像礼拝のもとで行なわれてきた。その一つは、偶像の前で自分の子供たちに火の中をくぐらせる風習であった……背信のはなはだしかった時代には、こうした憎むべきことが、ある程度イスラエル人のあいだにも行なわれていた。」（人類のあけばの上巻 398）

- a. イザヤやエレミヤの他に、ユダに預言するよう、神はだれを召されましたか。それはなぜでしたか（ミカ書 1:1-5; 2:1, 2, 7）。
- b. アハズの息子であるヒゼキヤの治世に、ミカはどのように偽預言者たちに立ち向かわなければなりませんでしたか。またなぜ今日もそれが必要なのですか（ミカ書 3:5-8; テモテへの第二の手紙 4:3, 4）。

「非常に重大であるために、中空を飛ぶ聖天使たちによって宣べ伝えられたと表現されているほど重要な警告を、神が人々にお送りになる時、神は理性を持つ者がすべてこのメッセージに耳を傾けるように求めておられる。獸とその像を拝むことに対する宣告されている恐るべきさばき（黙示録 14:9-11 参照）について知るとき、だれでもみな、獸の印とは何か、それを受けないようにするにはどうすればよいかということを学ぶために、熱心に預言を研究するようになるはずである。しかし大部分の人々は、真理を聞くことから耳をそらし、作り話へと向かってしまう。使徒パウロは終末の時代を予見して、『人々が健全な教に耐えられなく』ると言明した（テモテ第二 4:3）。その時がちょうど到来している。多くの人々は聖書の真理を好まない。なぜなら真理は、罪深い、世を愛する心の欲望を、妨げるからである。そしてサタンは、彼らの好む偽りを提供するのである。

しかし神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議（これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびただしい数にのぼって内容も千差万別である）、大衆の声、—これらのうちの一つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、『主はこう言われる』という明日な事実をその裏づけとして要求すべきである。」（各時代の大争闘下巻 360、361）

- c. 自分を義とする排他性の危険を述べなさい（ミカ書 3:9-12）。

「〔ミカ書 3:9 – 11 引用〕。このみ言葉は、腐敗に陥り自分を義とするエルサレムの住民を、正確に描写していた。彼らは、神の律法の教えを厳格に守っているといいながら、そのすべての原則を犯していた……彼らは、救い主が彼らの罪を譴責されたために、彼を殺しておきながら、なお自分たちは神に恵まれていると考え、神が彼らを敵の手から救ってくださると期待するほどに自分を義としていた。」（各時代の大争闘上巻 14）

3. 預言された回復

火/2月17日

- a. ミカによってあらかじめ告げられている裁きを遅らせているものは何ですか。またこれは、どのように神の憐れみを反映していますか(エレミヤ書 26:18, 19)。
- b. 神は勝利者にどの約束を与えておられますか。またこれは、どのようにエデンの回復を指し示していますか(ミカ書 4:1, 2, 6-8)。

「サタンは首尾よく人間を服従の道から離反させたために、『この世の神』となつた(コリント第2・4:4)。かつてアダムのものであった統治権が、横領者の手に移つた。しかし神のみ子は、この世界に来て罪の価を払い、こうして人類を贖うだけでなく、失われた統治権をも回復しようとなさつたのである。ミカが次のように預言したのは、この回復のことである。『羊の群れのやぐら、シオンの娘の山よ、以前の主権はあなたに帰つてくる』(ミカ書 4:8)。(国と指導者下巻 280)

「人々は、地上の法廷の判決に深い関心を示すのであるが、しかしそれも、いのちの書にその名を記された人々が、全地の審判者の前で調査される時の天の法廷における関心とは、とうてい比較にならない。仲保者イエスは彼の血を信じる信仰によって勝利したものがみな、その罪を許され、再びエデンの家郷にもどつて『以前の主権』を彼とともに繼ぐ者となるように、嘆願されるのである(ミカ書 4:8)。サタンは、人類をあざむき、誘惑することによって、人類創造における神のご計画を挫折させようと考えた。しかし、キリストは今、人間が堕落しなかつたかのように、この計画の実行を求められるのである。キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な許しと義認だけでなく、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである。」(各時代の大争闘下巻 216)

- c. ミカと他の預言者たちはこの最終的な勝利について、どのように預言したのですか(ミカ書 4:10-12)。

「このような厳肅な光景を示された預言者たちは、その意味を悟りたいと熱望した....

やがて起こるべき事件についてのこれらの描写は、その成就のまぎわに臨んでいるわれわれにとって、何という深い意味と利害を持っていることであろう。それは、人類の父祖アダムとエバがエデンを去つて以来神の子たちが見守り、待ちわび、熱望し、祈ってきた事件である。」(教育 216、217)

- a. 神の憐れみの豊かな注ぎにおいて、どのようにキリストの永遠の神性を明らかにしたミカ書 5:1, 2 の預言は成就しましたか。またそれでいながら、なおその美しさが見過ごされていましたか（マタイによる福音書 2:3-6）。

「こうして神は、型や象徴によると共に、家長や預言者たちによって、罪からの救い主の来臨について、世界に語られたのである。靈感によって与えられた預言は、長い間『万国の願うところのもの』の来臨を指示していたのである（ハガイ書 2:7・文語訳）。彼の誕生の場所そのもの、彼の出現の時でさえも、詳細に指摘されていた。ダビデの子は、ダビデの町でお生まれにならなければならなかつた。」（国と指導者下巻 298）

「キリストの初臨の時、神の言葉を托されていた聖都の祭司や学者たちは、時のしるしを見わけて約束されたおかたの来臨を宣布することができたはずであった。ミカの預言は、彼の誕生の地を指示していた。ダニエルは、彼の来臨の時をはつきり示した（ミカ書 5:2、ダニエル書 9:25 参照）。神はこうした預言を、ユダヤの指導者たちに托された。彼らがメシヤの来臨が近づいたことを知らず、人々に宣布しなかつたことに対して、弁解はあり得ない。彼らの無知は、罪深い怠慢の結果であった。ユダヤ人は、殉教した神の預言者たちの記念碑を建てていたが、その一方では地上の偉大な人物たちに敬意を払うことによってサタンのしもべたちに誉れを帰していた。彼らは、世俗の地位と権力の争奪に心を奪われて、天の王が彼らに与えようとされた栄誉を見失ってしまった。」（各時代の大争闘上巻 401、402）

- b. イスラエルの残りの民のための神のご計画として、何が明らかにされましたか（ミカ書 5:7）。

「神との平和また隣人との平和を保っている者は、決して不幸になることはない。彼の心には嫉妬はない。そこには惡意のはいる余地がない。憎悪も存在しない。神と調和している心は、天の平和の共有者である。そして周囲のすべての者に、その祝福された感化を及ぼすのである。平和の精神は、世の争いに疲れ、悩む人々の心に、露のようにとどまる。

キリストに従う者たちは平和の使信をもって世につかわされている。きよい生活の静かな無意識の感化によってキリストの愛をあらわし、ことばと行為によって、他の人に罪をすてさせ、心を神にささげるように導く者は、平和をつくり出す人である……

キリストの芳しいかおりが彼らをとりまいている。その生活のかおり、その品性の美しさは、彼らが神の子らである事実を世に示している。人々は彼らがイエスと共にいたことを知るのである。」（祝福の山 34、35）

- a. ミカは、アハズの治世に、過ちに陥ったイスラエルに神への忠誠に帰るよう招いて、どのようなすばらしい訴えをしましたか（ミカ書 6:2-5）。

「神はわずかでも不正を行うすべての者と論争しておられる。なぜなら、彼らはそうすることによって、神の権威を拒み、贖罪、すなわちキリストがすべてのアダムの息子むすめのために引き受けられた贖いにおいて、彼らの利益が危うくなるからである。神に嫌悪感を抱かせる道をたどることは、得になるだろうか。あなたの香炉に異火をたいて神のみ前に捧げ、何の違いもないと言うことは、やる価値があるだろうか？」（牧師への証 373）

- b. 多くの人々のどのような心から切望する嘆願に、神は答えたいと願っておられますか（ミカ書 6:6, 7; エレミヤ書 8:22; ヨハネによる福音書 1:29）。

「わたしたちは、自分の力で一度沈んだ罪の淵からのがれることはできない。また、わたしたちの悪い心を変えることもできない。....

人はただ、神の愛といつくしみ、また、父親のような優しさを悟つただけでは十分ではない。また神のおきてにあらわれた知恵と正義とを認め、おきてがいつまでも変わらない愛の原則の上にたてられていることを認めただけでも十分とはいえない。使徒パウロはこのことをよく知って、『もし、自分の欲しない事をしているとすれば、わたしは律法が良いものであることを承認していることになる』『律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである』（ローマ 7:16、12）と叫んだのであるが、なおつけ加えて、『わたしたちは、律法は霊的なものであると知っている。しかし、わたしは肉につける者であって、罪の下に売られているのである』（ローマ 7:14）と言ったのは、言うに言われぬ苦痛と失望があつたからである。彼は純潔と正義とを求めてやまなかつたが、彼自身にはそこまで達する力はなかつた。そしてついに、『わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか』（ローマ 7:24）と叫んだのである。こうした叫びは、どこにおいても、どんな時代にも、罪の重荷に悩む人々の心から等しくほとばしり出たものである。こうした人々への答は『見よ世の罪を取り除く神の小羊』（ヨハネ 1:29）というみ言葉よりほかにはない。」（キリストへの道 15 - 18）

個人的な復習問題

金/2月20日

1. わたしたちは自分の礼拝を計画するときに、どの歴史に注意を払うべきですか。
2. 終わりの時代の神の教会の教理を特徴づけるものは何ですか。
3. ミカはなぜ将来のために希望に満たされたことができたのですか。
4. キリストの時代におけるユダヤ人と終りの残りの民の間にある対比を説明しなさい。
5. 神が、ご自分の過ちに陥っている子らに手を差し伸べができるようにするのは何ですか。

わたしたちはすでに何をすべきか知っている！

暗唱聖句：「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告つげられた。主のあなたに求もとめられることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩あゆむことではないか。」（ミカ書 6:8）

推薦文献：　　教会への証 4巻 306-313

「へりくだり、信頼し、悔いた心を持っている人々を、神は受け入れ、その祈りを聞いて下さる。神が助けて下さるとき、あらゆる障害は克服される。」（教会への証 4巻 539）

1. 神の御目に

日/2月22日

- a. 預言者ミカは、神に対する自分たちの義務を要約するために、どの単純な説明をもって述べましたか（ミカ書 6:8）。

「魂のうちに記され、そして献身した聖なる生活に表された神のみ言葉と律法には、世を説得する力強い感化力がある。貪欲、すなわち偶像礼拝、妬み、世の愛は、キリストに従順な人々の心からは根こそぎ抜かれる。そして、公正に扱い、憐れみを愛し、神のみ前にへりくだって歩むことが、彼らの喜びとなる。ああ、どれほどのことか、神のみ前にへりくだって歩むことのうちに含まれていることであろう！神の律法は、もし心のうちに記されるならば、思いと意志をキリストの従順へと従わせるのである。」（教会への証 3巻 201）

- b. 立派な高潔さの必要について、どのように思い起こさせられますか（ミカ書 6:11）。

「真理からのわずかな逸脱、神のご要求からの小さな差異は、金銭上の損益が関わる場合、結局たいした罪ではないと思われる。しかし、百万長者によって犯されようが、街路の物乞いによって犯されようが、罪は罪である。偽りの説明によって財産を得る人々は、自分の魂に有罪を招くのである。」（同上 4巻 311）

2. わたしたちの状態 対 神の榮光

月/2月23日

- a. ミカの時代の神の民だと公言する人々の状態について、どのような適切な描写がなされていますか（ミカ書 7:2-4）。

「これは、実に選民にとって、一大危機の時代であった。わずか数年のうちに北の十部族は、異邦の諸国の中に離散されなければならなかつた。そして、ユダ王国においても、前途は暗たんとしていた。善の勢力は急速に衰え、悪の勢力は増大していた。」（国と指導者上巻 289）

- b. わたしたちが神の必要に焦点をあて続けるために、どのような視点が助けとなりますか（ミカ書 7:5-7；詩篇 60:11）。

- c. 信仰によってすべての人がつかむ特権を持っている貴重な希望を述べなさい（ミカ書 7:8, 9）。

「天の神の救いの計画は、広く全世界を含むものである。神は弱り果てた人類に、生命の息を吹き込もうと熱望されるのである。そして神は、この世の何ものよりもはるかに高尚で高貴なものを、真剣に求めている者が失望に陥ることをお許しにならないのである。最も絶望的な状況のもとにありながらも、自己の力以上の何か大きな力によって救いと平和が与えられるように、信仰をもって祈っている者に神は常に天使を送っておられる。神はさまざまの方法によって自分を彼らに現し、『彼らをして神に望みをおき、神のみわざを忘れず、その戒めを守らせるため』にご自身を頼りとしてすべての者のためにお与えになった方に対する信頼を確立するように、神の摂理の働きに彼らを触れさせられる（詩篇 78:7）。」（国と指導者上巻 346）

- d. ミカは神のご品性を、どのようにほめ讃えていますか（ミカ書 7:18, 19）。

「なんと輝かしい真理であろう。神はご自身の律法に対して義でありながら、なおイエスを信じるすべての者を義とされるお方たなのである。」（祝福の山 145）

- a. 神のご品性のうちにある完全な均衡を、どのように要約することができますか（ナホム書 1:3）。

「天の聖所におられる裁判官は、正しいさばきを行なわれる。彼は、ご自分のみ座を取りかこむ天使たちよりも、罪の世の誘惑にさらされている人類との交わりをお喜びになる。」（キリストの実物教訓 157）

「神の忍耐は驚くばかりである。罪人に恵み深い訴えがなされている間に、神の義もまた長く待っている。」（同上 158）

- b. 神の憐れみはわたしたちの存在にとって不可欠であることを自覚しながら、それ以外に、わたしたちは何をつねに心にとめている必要がありますか（ナホム書 1:5-8）。

「神は寛容であり、だれ一人滅びることを望んでおられない。しかし、このお方の寛容には限界がある。その境界線を越えるとき、第二の恩恵期間はない。このお方の怒りは発せられ、憐れみなく滅ぼされるのである。

人が力を持って自分の人類同胞を圧迫し、損なうとき、そして地上の裁判が正義を行うのが見られないとき、神は自らを擁護できない人々のために介入なさる。このお方はすべての圧迫の行為を罰せられる。いかなる地上の知恵も、天の裁判に對して、悪を行う人を守ることはできない。そして、人が自分の信頼を自分の造り主の代わりに地上の権力におくとき、彼らが誇りと自信のうちに高ぶるようになるとき、神はご自身の時にしたがって、彼らを蔑まれるのである。」（SDA バイブル・コメントリ [E・G・ホウト・コメント] 7 卷 946）

「世の人びとは、大胆に神の律法を犯すようになった。神が長く忍んでおられるために、人びとは、神の権威をふみにじつた。彼らは、互いに、競って、神の嗣業である人びとを圧迫し残酷に扱った。『神はどうして知り得ようか、いと高き者に知識があろうか』とかれらは言うのである（詩篇 73:11）。けれども、彼らには越えられない一線が画されている。定められた限界に彼らが達するときが近づいてきた。今すでに、彼らは、神の忍耐の限界を越えようとしている。それは、神の恵みとあわれみの限界である。主は、み手を下してご自分の名誉を擁護し、神の民を救い出し、不義が増し加わるのをおさえられる。」（キリストの実物教訓 158、159）

- c. 新地では、罪が二度とあらわれないことを、わたしたちはどのように知ることができますか（ナホム書 1:9）。

- a. ナホムは、キリスト再臨前の最後の時を指して、どの光景を描写しましたか。そして、このことから、わたしたちは今日の急速な環境のうちに、優先事項として、何を考えるべきですか（ナホム書 2:3, 4; ヨハネによる福音書 9:4）。

「全地を通じて警告を響かせなさい。人々に主の大いなる日は近い、近づいて、すみやかに来ることを告げなさい。だれ一人警告されずに取り残されてはならない。

…

わたしたちには無駄にする時間はない。闇の権力が激しい精力をもって働いている。そしてサタンは、おおかみが獲物を捕らえるように、忍び足で今寝ている人々をとらえようと近づいている。わたしたちには今伝えるべき警告があり、今なすことができる働きがある。しかし、まもなくわたしたちが想像するよりも難しくなる。…

主の来臨はわたしたちが最初に信じたときよりも近い。大争闘が終わりに近づいている。海や陸の災難の報告一つ一つは、万物の終わりが近いという事実についての証である。戦争と戦争のうわざがそれを告げている。わたしたちの前に開かれつつある大きな事件を予期しながら、脈が速く打たないクリスチャンが一人でもいるだろうか。

主は来られる。神の近づかれる足音が聞こえる。このお方はその惡のために世を罰するために来られるからである。このお方が大いなる日のために民が準備できるように、わたしたちは自分たちの役割を果たすことによって主のために道を備えなければならない。」（伝道 218, 219）

「神から貸し与えられているすべての力は、身体的でも、知的でも、靈的でも、無知のうちに滅びつつある人類同胞のためにわたしたちがなすよう割り当てられた働きをなすために神聖に大切にすべきである。」（教会への証 7 卷 180）

「真理の知識を持っているすべての教会員は、昼の間に働くよう期待されている。なぜなら、夜が来て、だれも働けなくなるからである。」（同上 9 卷 26）

- b. アッシリアのニネベに向かって示されたように、神の憐れみを拒み、神の怒りを受けるすべての人の運命を描写しなさい（ナホム書 2:8-11）。

「無限の神は、今もなお誤ることのない正確さをもって諸国の記録をとつておられる。神のあわれみが差しのべられて、悔い改めの招きが与えられている間、この帳簿は開かれている。しかし、数字が神のお定めになった一定の数に達するときに、神の怒りのわざが始まる。帳簿は閉じられる。神の忍耐は終わる。もはや、あわれみの声は彼らのために訴えなくなるのである。」（国と指導者上巻 331）

5. 歴史は繰り返す

木/2月26日

- a. アッシリヤの破滅は、どのように描写されていますか。またなぜこれは特に今関係があるのですか（ナホム書 3:7, 12, 13, 18, 19）。

「アッシリヤ帝国の栄光は、実に偉大なものであった。また、その崩壊もはなはだしいものであった。」（国と指導者上巻 333）

「アッシリヤの誇りとその崩壊とは、時の終わりに至るまで実物教訓として、その役割を果たすのである。傲慢と誇りをもって神に逆らう今日の地上の国々に対して、神は次のようにおたずねになる。『エデンの木のうちで、その栄えと大いなることで、あなたはどれに似ているのか。あなたはこのように、エデンの木と共に、下の国に落され』る（エゼキエル書 31:18）。（同上 333, 334）

- b. まもなく、どのように似た光景が起こりますか（ヨハネの黙示録 18:7-11, 15-18）。

「〔黙示録 18:3、15 – 17 引用〕。これが、神の怒りの日に、バビロンにくだる刑罰である。バビロンの悪は満ちた。その時は来た。滅亡の時は熟した。

神のみ声が神の民を捕われの身からかえされるときに、人生の大きな争闘においてすべてを失った人々に、恐るべき覚醒が起こる。恵みの期間が続いていたとき、彼らは、サタンの欺瞞に目をくらまされ、自分たちの罪の行為を正当化していた。金持ちは自分たちは貧しい人々に優越していると誇っていた。しかし彼らは、神の律法を犯してその富を得たのであった。彼らは、飢えた者に食べさせ、裸の者に着せ、正義を行ない、あわれみを愛することを、怠っていた。彼らは、自分を高めることを、そして人々の尊敬を受けることを求めていた。ところが今、彼らは、彼らを偉大にしていたすべてのものをはぎ取られて、何も持たず、なんの防備もないのであった。彼らは、自分たちが創造主よりも好んだ偶像が破壊されるのを見て、恐れおののく。」（各時代の大争闘下巻 436）

個人的な復習問題

金/2月27日

1. ミカ書 6:8 によると、どの単純な三つのことが、わたしたちに要求されていますか。
2. なぜ、最悪の罪人のためでさえ、ただ一つの希望があるのですか。
3. なぜ今日特に、謙遜は、神が価値をおかれる必要な徳なのですか。
4. 今日多くの人がニネベと同じ運命にあるため、わたしたちは何を優先すべきですか。
5. バビロンの崩壊は、どのような意味において、ミカ書 6:8 を無視することと関係していますか。

第一安息日獻金 マラニヨン・ピアウイ・フィールド (AMAPI) 本部、ブラジル

ブラジル北東部、マラニヨン州とピアウイ州には合わせて約 1,040 万人が暮らし、約 224,282 平方マイル (581,406 平方キロメートル) の領土に広がっています。この地域の気候は赤道性から熱帯性、そして半乾燥性まで変化に富み、在来のヤシ、マングローブ、アマゾンの森林、セラード、カチンガなど、多様な植生が広がっています。

この地域における改革運動の最初の教会は、1960 年にマラニヨン州バカバル市に設立されました。会員数の増加と各州における新しい教会の設立に伴い、2016 年には約 530 人の会員を擁するマラニヨン・ピアウイ・フィールド (AMAPI) が組織されました。



私たちフィールドは、管理事務所、宿泊施設、そして講堂を建設する必要があります。新しい本部の完成に向けて、世界中の愛する兄弟姉妹の皆様の寛大なご支援を心から願っております。

「神はご自分のみ事業の前進のために人に頼ってはおられない。このお方は天使たちをご自分の真理の使者とすることがおできになる。ご自分のみ旨を知らせるのに、ご自身のみ声でシナイ山から律法を宣布されたようになさることがおできになる。しかし、わたしたちのうちに慈愛の精神を培うために、このお方はこの働きをするのに、人をお用いになることを選ばれた。他の人の益のためになす自己犠牲の行為一つ一つは、与える人の心に慈愛の精神を強め、その人をもっと近く世の贖い主と結びつける。このお方は『富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである』。そして、わたしたちにとて命が祝福となることができるのは、ただわたしたちが創造における神のご目的を成就するときなのである。神が人に与えて下さった良き賜物はどれも、それらを人類同胞を祝福するために、また地上における神のみ事業の前進のために用いないかぎりのろいとなることがわかるであろう。」(レビュ・アンド・ペラル 1886 年 12 月 7 日)

この呼びかけが皆様に届きましたら、忠実な管理人に注がれる祝福を思い出し、この活動にご協力ください。神の恵みにより、この活動は、この分野における活動の成長と継続にとって非常に重要なものとなるでしょう。「神は喜んで施す人を愛して下さるのである」(コリント人への手紙二 9:7)。

マラニヨン・ピアウイ・フィールドから皆さんの兄弟姉妹より

全知なるお方への敬神

暗唱聖句:「しかし、主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ。」(ハバクク書 2:20)

推奨文献: 教会への証 5巻 491-500

「神の家に対する敬神はほとんど絶滅している…わたしたちには神の礼拝において熱烈な献身の精神を維持するのに十分な理由がある。ユダヤ人が持っていたよりももっと、わたしたちの礼拝においてもっと心を尽くし敬虔になる理由がある。」(教会への証 5巻 495)

1. 大きな疑問

日/3月1日

- a. 預言者ハバククは、神への祈りを始めるにあたり、何を表現しましたか (ハバクク書 1:1-4)。

「人間的見地からするならば、選民に対する神のみこころはほとんど達成が不可能のように思われた。過去幾世紀間にわたる背信は、年の経過と共にいよいよその力を増していった。十部族は異教徒の間に離散してしまった。あとに残ったのは、ユダとベニヤミンだけであった。しかもこれらの部族でさえ、道徳的に国家的に破滅寸前にあった。預言者たちは、ソロモンの神殿があり、国家的偉大さについては地上のあらゆる希望の中心であった、美しい都の全滅を預言し始めていた。神は、ご自分に信頼する者を助けると約束されたことを、撤回しようとしておられるのであろうか。義人に対して長く続いた迫害や、一見悪人が繁栄しているかのように思われることなどに直面した、神に忠実な人々は、将来よい日が来ることを望むことができたであろうか。こうした切実な疑問を預言者ハバククは発した。」(国と指導者下巻 4)

- b. 主はどのようにお答えになりましたか (ハバクク書 1:6-11)。

- a. なぜハバククは神のご計画を喜んで受け入れたのですか (ハバクク書 1:12, 13)。

「神は忠実な民の叫びにお答えになった。神はご自分が選ばれた代弁者の口によって、神から離反して、異教の神々に仕えた国家に罰を下れるという決意をあらわされた。将来の事について神にたずねていた人々のある者が生きているうちに、神は奇跡的に地の強国の状勢を導いて、バビロン人が支配権を握るようになさるのであった。『きびしく、恐ろしく』これらのカルデヤびとが突然神の命によるむちとして、ユダの国を襲うのであった (ハバクク書 1:17)。」(国と指導者下巻 5)

- b. 預言者に与えられたどの教訓が、初期のアドベンチストの先駆者たちの経験において特に当てはまりましたか (ハバクク書 2:1-4)。

「主の再臨を最初に期待していた時一すなわち 1844 年の春一が過ぎたとき、主の出現を信仰をもって待望していた人々は、しばらくの間、疑惑と不安に閉ざされた。世は、彼らが全く敗北し、妄想にとりつかれていたことを証明したと考えたが、しかし彼らの慰めの源は、なお神の言葉であった。多くの者は、聖書の研究を続け、自分たちの信仰の証拠を改めて吟味し、注意深く預言を学んで、もっと光を受けようとした....」

彼らが再臨の時にあてはまると考えた預言の中には、彼らの不安と気がかりな状態に対して特にあてはまる教訓があった。そしてそれは、今はわからないことでも、やがて明らかにされるという信仰をもって耐え忍んで待つようにと、彼らを励ますものであった。これらの預言の中に、ハバクク書 2:1-4 の預言があった....

『この幻を書き、これを板の上に明らかにし、走りながらも、これを読みうるようになせよ』というこの預言の指示は、早くも 1842 年に、ダニエル書と黙示録の幻を説明する図表の作製をチャールズ・フィッチに思いつかせていた。この図表の発表は、ハバククによって与えられた命令の実現であると考えられた。しかし、幻の成就には一見遅延一時期が遅れること一があるということが同じ預言の中に示されていることに、そのときだれも気づかなかつた。」(各時代の大争闘下巻 95、96)

- a. ハバクク書 2:4 は、各時代の信徒たちを、どのように強めてきましたか（ローマ人への手紙 1:16, 17）。

「あの大いなる試練の時代に、ハバククおよびすべての聖徒たちとすべての義人たちを力づけた信仰は、今日、神の民を支えるのと同じ信仰であった。キリスト信者は、最も暗黒で最も険悪な状態のもとにあって、すべての光と力の源に寄り頼んでいることができる。日ごとに神を信じる信仰によって、希望と勇気を新たにすることができます。『義人はその信仰によって生きる』。神の奉仕においては、落胆も動搖も恐怖も不必要である……」

われわれは預言者たちや使徒たちが試した信仰を抱いて、それを強めるようにしなければならない。それは神の約束をしっかりと把握して、神がお定めになった時と方法によって救いをお与えになるのを待つ信仰である。」（国と指導者下巻 6）

- b. 疑うように誘惑されたり、僭越に陥りそうなとき、わたしたちはいつも何を心にとめているべきですか（哀歌 3:25, 26; ハバクク書 2:20）。

「待望の期間は長く思われるかも知れない。心は失望的状況下に圧倒されるかも知れない。また、信頼されていた多くの人々が、途中で倒れてしまうかも知れない。しかしあれわれは、未曾有の背信の時代にあって、ユダを励まそうと努力した預言者と共に次のように言おう。『主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ』。」（同上 7）

「神に対する真の崇敬の念は、神の無限な偉大さを感じ、神の臨在を意識することによって喚起される。」（教育 286）

「『そのみ名は聖にして、おそれおおい』（詩篇 111:9）とある。天使たちは、神のみ名を語るとき、顔をおおう。ましてや堕落した罪深いわれわれ人間は、どんなに崇敬の念をもって神のみ名を口にしなければならないことであろう。

われわれは神のみ言葉を敬うべきである。聖書に対して崇敬の念を示し、これを凡俗のことに用いたり、不注意に取り扱ったりしてはならない。」（家庭の教育 588）

ご両親がた、あなたがたがどんなお手本や考えを子供たちに与えているかに注意しなさい。子供たちの心は柔らかくて、感じやすいのである。教会の礼拝に関して、たとえ説教者に欠点があっても、それを口にしてはならない。彼がしている良い働き、神の代理者を通して与えられるものとしてあなたがたが心を留めるべき、彼が話した良い考えだけを語りなさい。子供たちがなぜみ言葉の説教に感銘を受けないのか、なぜ神の家に対する敬虔の念に乏しいかは、すぐに想像がつく。こうした点における教育が不完全だったからである。」（同上 595）

- a. ハバククのどの熱心な祈りを、今日わたしたちもこだまさるべきですか（ハバクク書 3:2）。

「古代イスラエルが経験したのと同じ真の心の宗教のリバイバルが、今日必要である。神に帰ろうとする者のるべき第一歩は、悔い改めである。だれも人に代わって、悔い改めることはできない。われわれ個人個人が、神の前にへりくだり、偶像を捨てなければならない。われわれのなし得るすべてを尽くしたときに、主は、彼の救いをあらわされる。」（人類のあけばの下巻 251）

- b. 深刻な困難や難局に直面してさえ、わたしたちの信仰は一貫して何が特徴となっているべきですか。それはなぜですか（ハバクク書 3:17-19；ピリピ人への手紙 2:14, 15）。

「厳しく圧迫され、痛々しいほど試されている人は言いなさい『たとえ彼がわたしを殺しても、わたしは彼により頼む』。」（両親、教師、生徒への勧告 317）

「キリストのとりなしの血によって、罪人はその罪にふさわしい罰を受けずにすんだのである。しかし、最後の刑罰においては、あわれみを混じえずに怒りが注がれるのである……」

神の民は苦難を免れるわけではない。彼らは迫害と苦しみに会い、窮屈に耐え、食物の不足に苦しむのであるが、滅びるままにほうっておかれたりはしない。エリヤを養われた神は、ご自分の献身的な子供たちをひとりも見捨てられない。彼らの頭の毛までも数えられるおかたが、彼らを保護し、ききんの時にあって満ち足せられる。悪人たちが飢えと疫病のために死んでいくときに、天使は義人を守り、その必要を満たすのである。」（各時代の大争闘下巻 404、405）

- c. わたしたちの時代にもかかわるメッセージを伝えるために、同じ時代に、他にどの預言者が起こされましたか（ゼパニヤ書 1:1）。

「輝かしい希望の言葉を語り、現在の刑罰と共に将来の勝利について語ったのは、ハバククひとりではなかった。ヨシヤの治世に主の言葉がゼパニヤに臨み、背信が続くならばどのような結果を招くかを明示し、真の教会の注目を輝かしい将来の展望に向けさせた。ユダに切迫した刑罰についての彼の預言は、キリストの再臨の時に悔い改めない世界に下る刑罰について、同様に適用することができる。」（国と指導者下巻 9）

- どの酔いを醒ますようなメッセージが、偽りの礼拝とそれを奨励する人々に対する神の怒りという現実を明らかにしていますか（ゼパニヤ書 1:2-6）。
- だれかが何気なく神に従っていると思い込んでいるかもしれない一方で、どの態度が心の中に隠された深刻な反逆を明らかにしますか（ゼパニヤ書 1:12, 13; マタイによる福音書 24:48-51）。

「神がこの時代のための神聖で厳肅で試金石となる真理を委ねてこられた民は、自分の持ち場で眠っている。彼らは自分の行動によって、わたしたちには真理がある、わたしたちは『富んでいる。豊かになった、なんの不自由もない』と言っているが、まことの証人は、次のように宣告なさる、あなたは『みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない』。

なんと忠実な言葉で現在の教会の状態を描いていることであろう。『あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない』。警告のメッセージは聖霊によって命じられ、神の僕たちによって担われ、品性の欠点が誤っている者の前に提示されている。しかし、彼らは言う、『それはわたしのことを表しているのではない。わたしはあなたのたずさえてきたメッセージを受け入れない。わたしはできる最善を尽くしている。わたしは真理を信じている』。

心の中で、『わたしの主人は帰って来るのが遅い』と言っている悪いしもべは、キリストを待っていると公言していた。外面的には神の奉仕に献身していたが、心ではサタンに明け渡していた。彼は嘲る者のように、あからさまに真理を否定はしない。しかし、彼の生涯が心の言葉を表している一主が来られるのは遅いと。僭越が彼に永遠の利益を軽視させる。彼は世の格言を受け入れ、世の習慣とならわしに合わせる。利己心、世俗的な誇り、野心が優位を占める。自分の兄弟が自分よりも高いところに行くのではないかと恐れ、彼は彼らの努力を軽んじ、彼らの動機に疑いを差し挟む。こうして、彼は自分の僕仲間を打つのである。」（教会への証5巻101, 102）

個人的な復習問題

金/3月6日

- もし神の方法によって当惑したら、ハバククの祈りから、わたしは何を学ばなければなりませんか。
- 預言の年代表を感謝する人を、わたしはだれか知っているでしょうか。
- 神の家におけるわたしのふるまいのどの局面が、改善されるべきですか。
- わたしがつぶやいたり、文句を言ったりする誘惑に抵抗することが、なぜ命にかかるほど重要なですか。
- 譴責されたとき、なぜわたしが深い心の吟味に投じることが重要不可欠ですか。

油断なく神に栄光を帰す

暗唱聖句：「万軍の主はこう言われる、あなたがたは、自分のなすべきことを考えるがよい。」（ハガイ書1:7）

推奨文献：　教会への証9卷92-96

「あなたは先延ばしにすべきではない。かえって厳密に自分自身の心を吟味し、日ごとに自己に死になさい。」（教会への証3卷336）

I. 二つの階級

日/3月8日

a. まもなく起ころうとしている複雑な光景を述べなさい（ゼパニヤ書1:14-18）。

「神をおそれて、神の民が罪を拒絶する必要性を認め、純潔のうちに繁栄することができるよう、また神のみ名が栄光を受けるように、教会から妨げを取り除き、嘆かわしい悪を正すために働く人々は、いつでも献身していない人々からの抵抗する感化力に直面する。ゼパニヤはこうして、この階級の眞の状態と彼らに下ることになる恐ろしい裁きを述べている。」（教会への証3卷270, 271）

「〔ゼパニヤ1:2, 3, 8-18引用〕。神が状況の支配者であられることを明らかにするような一連の出来事があるであろう。真理ははつきりと間違えようのない言葉で宣布されるようになる。民としてわたしたちは聖霊のすべてを支配する導きの下に主の道を備えなければならない。福音がその純潔さのうちに伝えられなければならない。生ける水の流れが進むにしたがってより深く、広くなるべきである。あらゆる地で近くも遠くも、人々が鋤（すき）から、また人々の思いを大いに占めているもと通常の営利事業の職業から召され、経験のある人々とのつながりの中で教育されるであろう。彼らが効果的に学ぶにつれ、力強く真理を宣布するようになる。もっともすばらしい神のみ摂理の働きを通して、困難の山が取り除かれ、海に投げ込まれる。地に住む人々にとって重要な意味を持つメッセージが聞かれ、理解される。人々は何が真理かを知るようになる。前へなお前へと、働きは前進し、全地が警告されるようになり、それから終わりが来るのである。」（教会への証9卷96）

- a. 来たるべき危機において神の保護にとって何がかぎですか (ゼパニヤ書 2:1-3, 15; コリント人への第二の手紙 7:1)。

「神はご自分の民が肉と靈のすべての汚れから自らを清め、主を恐れて聖潔を完成するように求めておられる。この働きに関心を持たずに弁解し、主が彼らに自分でするようにと求めておられることを、主が自分たちのためにして下さることを待っているすべての人は、地の柔軟な者、すなわちこのお方の裁きを行つてきた人々が、主の怒りの日に隠されるときに、足りないことが見いだされるであろう。」(教会への証 1 卷 619)

「主の日、すなわちキリストの来臨の直前に、神は天からその怒りのうちにいなずまを送り、それは地の火と一つになる。山々は炉のように燃え、恐るべき溶岩の流れを注ぎ出して、園や野や村々や町々を破壊する。そしてそれらが溶けた鉱石や、岩や熱した泥を川に注ぎ込むときに、それがやかんのように沸騰させ、巨大な岩を吐き出し、描写できないほどの破壊力をもって地の上にくだけた破片をまき散らす。すべての川が干上がる。地は激しく振動し、おそろしい噴火と地震が至る所に起こる。神は地上の邪惡な住民がそこから一掃されるまで災いを下される。聖徒たちは、洪水の時に箱舟の中でノアが守られたように、これらのおそるべき混乱のただ中で守られる。」(霊的な賜物 3 卷 82, 83)

- b. 単なる浅い公言しかない人々とは対照的に、神の忠実な信徒たちを特徴づけているものは何ですか (ゼパニヤ書 3:1-4, 12, 13)。

- c. ゼパニヤはどのように全世界のあらゆるところにいる神の忠実な民のために大きな希望と一使命一を明らかにしています (ゼパニヤ書 3:14-16)。

「全天は、近くまたわたしたちの助けを必要としている地ばかりでなく、遠く離れた地にも関心を持っている。天の存在は人間の代理人が、自分たちの困惑と試練と悲しみと苦悩のうちにいる同胞の働き人仲間の必要によって、深く動かされるのを見ようと待っている。」(教会への証 6 卷 459)

3. わずかな忠実な者のための慰め

火/3月10日

- a. どの記述が、ご自分の子らを愛する神の愛の深さを明らかにしていますか。またどのようにそれを反映するべきですか（ゼパニヤ書 3:17；コリント人への第二の手紙 1:3, 4）。

「神は、あなたを祝宴の家に連れて行き、あなたの上に愛の旗をひるがえしてくださる（雅歌 2:4）。『あなたがもし、わたしの道に歩』むならば、『ここに立っている者どもの中に行き来することを得させる』一神のみ座のまわりの聖天使たちの間にさえ立たせると、神は言われる所以である（ゼカリヤ書 3:7）……こうして天と地は、天の父の喜びの歌に声を合わせる。『このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから』。」（キリストの実物教訓 187）

「千々万々の神の御使たちは、救いを受け継ぐべき人々を助けるように任命を受けている。彼らは悪に対してわたしたちを防御し、わたしたちを滅ぼそうとしている闇の権力を押し返している。わたしたちには毎瞬間感謝する理由、一見行く道に危険が見えているときでさえ感謝する理由がないであろうか。

主ご自身がわたしたちの助け手であられる。『シオンの娘よ、喜び歌え。イスラエルよ、喜び呼ばわれ。エルサレムの娘よ、心のかぎり喜び楽しめ。』『あなたの神、主はあなたのうちにいまし、勇士であつて、勝利を与えられる。彼はあなたのためには喜び楽しみ、その愛によってあなたを新にし、祭の日のようにあなたのために喜び呼ばわられる』（ゼパニヤ 3:14, 17）。これは、主がわたしたちに、世界に対して抱ってほしいと望んでおられる証である。このお方の賛美が絶えずわたしたちの心と唇にあるべきである。

このような証には他の人々に対して感化力がある。人々が幸せを得ようと自己にふけって努力することから、その向きを変えさせようと努めるとき、わたしたちは、彼らが探しているものよりも良いものを彼らに示さなければならない。」（教会への証 6 卷 63, 64）

- b. 自由の律法を犯すことを拒んだために迫害されているご自分の子らに対する神様のさらなる優しい保護を述べなさい（ゼパニヤ書 3:18-20；エゼキエル書 9:3, 4）。

「この点を注意して注目しなさい。聖霊の力によって彼らのうちに働くからで、真理の純粋なしるしを受ける人は、麻布の衣を着た人によってつけられるしるしによってあらわされており、彼らは教会の中で『行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ』人々である。彼らの純潔に対する、また神の誉れと栄光に対する愛はこれほどまでであり、彼らには罪のはなはだしい罪深さがはつきりと見えている。それにより彼らは苦悩のうちにいて、嘆き悲しんでさえいる者として表わされているのである。」（教会への証 3 卷 267）

- a. ハガイが預言者として召されたときに、何が起こっていましたか。またこの状況から、わたしたちは何を学ぶべきですか（ハガイ書 1:1-4）。

「『この民は』という表現は意味深い。イスラエルは、自分たちの機会の時に、自ら意志があることを示してこなかった。すみやかな従順が、主に選ばれ、導かれた人々に期待されている。延ばしてほしいとの嘆願は神にとって恥辱である。それでいながら、自分自身の道に従うことを選ぶ人々は、しばしば自己義認において巧妙な言い訳をでっち上げる。こうしてイスラエル人は、自分たちが再建し始めたが、彼らの敵の考案した妨害によって自分たちの働きにおいて中断させられたと宣言した。彼らはこれらの妨害は、再建するべき適切な時ではないことを示唆していると論じた。彼らは、自分たちの熱した性急さを、主が譴責するために困難をもって介入されたのだと宣言した。これこそこのお方が、預言者を通して伝達する際、彼らを『わが民』ではなく、『この民』と言及された理由である。

イスラエル人には宮のための自分たちの働きを放置する本当の理由はなかった。もっとも深刻な障害が起こった時は、彼らが建設を辛抱強く続けるべき時であった。しかし、彼らは自分の敵の反対を引き起こすことによって危険に直面したくないと利己的な嫌悪感によって動かされていた。彼らは望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認する信仰を持っていなかった。彼らは信仰によって、神の開かれたみ摂理の中を進んでいくことをためらった。なぜなら、彼らは始めから終わりを見ることができなかつたからである。困難が生じたとき、彼らはたやすく働きから踵（きびす）を返した。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホット・コメント]4 卷 1175）

- b. 世俗的な関心によって注意をそらされている人々に、どんな訴えがなされていますか（ハガイ書 1:5-10）。

「預言者ハガイの時代には、人々が任意のささげ物すら出し惜しんで神のご用のためにささげなかつた結果の著しい例があげられている……ユダヤ人は、バビロンの捕囚から帰還後、主の神殿の再建にとりかかつたところが頑強な敵の反対に会つて、工事は中断された。」（人類のあけばの下巻 162）

- c. 残りの民は心と行動において、どのように勝利を得ましたか（ハガイ書 1:12, 13）。

「〔残りの民は〕、自分たちの繁栄と神の祝福は、彼らに与えられた指示に完全に従うことにはかかっているのだとくり返された警告をあえて無視しようとはしなかつた。彼らが主のみ言葉を行おうと決心したとたんに、このお方の譴責のメッセージは、励ましのメッセージに変わつた。ああ、わたしたちには、なんと憐れみ深い神がおられることだろう！」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホット・コメント]4 卷 1176）

5. 様々な方法で栄光に満ちた

木 / 3月12日

- a. 建設されるべき第二の宮のための神のご計画を説明しなさい (ハガイ書 2:6-9)。

「神殿は、ネブカデネザルに破壊されたあとで、キリスト誕生の約五百年前に、長年にわたった捕囚生活から、荒廃した故郷に帰ってきた人々によって再建された。そのとき、人々の中には、ソロモンの神殿の栄光を見た老人たちがいて、新しい建物の基礎が以前のものと比べてはるかに劣っているのを嘆いた。こうした人々の気持ちを預言者は、『あなたがたが残りの者のうち、以前の栄光に輝く主の家を見た者はだれか。あなたがたは今、この状態をどう思うか。これはあなたがたの目には、無にひとしいではないか』と、力をこめて言っている (ハガイ書 2:3。エズラ記 3:12 参照)。このとき、この後の家の栄光は、前の家の栄光より大きいという約束が与えられた。

しかし、第二の神殿は、荘厳さにおいて、第一の神殿の比ではなかった。また、第一の神殿に与えられていた神の臨在の目に見えるしはなかった。その献堂を記念する超自然的力の現われもなかった。栄光の雲が新築の聖所を満たすのも見られなかった。祭壇の上の犠牲を焼きつくす天からの火もなかった。至聖所のケルビムの間に、シェキナーは、もう宿っていなかった。そこには、契約の箱も贖罪所もあかしの板もなかった。神に問う祭司に、主のみこころを告げる天からの声はなかった。

何世紀もの間、ユダヤ人は、ハガイによって与えられた神の約束の成就を示そうと努めてきたが、むだであった。しかし、誇りと不信が彼らの心を盲目にし、預言者の言葉の真の意味を理解させなかった。第二の神殿は、主の栄光の雲ではなくて、肉体をとつて現われた神ご自身、満ちみちているいっさいの神の徳が宿っているかたの生きた臨在によって、あがめられるのであった。ナザレの人イエスが神殿の庭で、教え、いやされたとき、『万国民の財宝 (万国の願うところのもの・文語訳)』が、ほんとうに彼の神殿に来られたのである。キリストが来られたこと、ただそのことだけで第二の神殿は、第一の神殿の栄光をしのいだ。」(各時代の大争闘上巻 10、11)

個人的な復習問題

金 / 3月13日

1. まもなく来ようとしている危機において、わたしはどのように神のみ手のうちに、善のための力となることができますか。
2. なぜこの終わりの時代に柔軟が求めるべき重要不可欠な特質なのですか。
3. 主の怒りの日に隠されるすべての人を特徴づけるものは何ですか。
4. 人生における最大の優先事項の進路から外れさせる傾向があるものは何ですか。
5. なぜハガイの時代に単純で慎ましく建てられた宮が、それほど栄光に満ちているのですか。

終わりの時のできごと

暗唱聖句：「あなたがたは春の雨の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおののに賜わる。」（ゼカリヤ書 10:1）

推奨文献：
国と指導者下巻 174-197
牧師への証 506-512;
患難から栄光へ上巻 43-53

「わたしたちが神に聖靈を求めるとき、わたしたちのうちに働いて、柔軟、心のへりくだり、完全にする後の雨のために意識的に神により頼むこと、これらをもたらす。もしわたしたちが信仰のうちに祝福を祈り求めるなら、神が約束された通りに、それを受けるのである。」（牧師への証 509）

1. 目の瞳

日/3月15日

- a. ゼカリヤは、ハガイのメッセージをどのように支持しましたか（ゼカリヤ書 1:1-4, 15, 16）。

「ハガイが叫んだ熱烈な嘆願と激励の言葉を、ゼカリヤが強調してさらに追加した。神は起きて建てよという命令を実行するよう、イスラエルを促すためにゼカリヤを起こして、ハガイのかたわらに立たされた。ゼカリヤの第一の言葉は、神の言葉は絶対に間違いないという確証と、確実な預言の言葉に耳を傾ける者に対する、祝福の約束であった。」（国と指導者下巻 182）

- b. 何が、神のご自分の民のための注意深い保護を明らかにしましたか（ゼカリヤ書 2:1-5, 8）。

「神はエルサレムの再建をお命じになったのであった。都を測る幻は、神が苦しんでいる人々に慰めと力を与え、彼らに永遠の契約という約束を成就するという確証であった。彼の保護は、『その周囲で火の城壁となる』と言われた。そして彼らによって、神の栄光がすべての人の子らにあらわされるのであった。神が民のために成し遂げておられたことは、全地に告げ知らされるのであった。」（同上 187）

- a. わたしたちに欠点があるために、何がわたしたちの唯一の希望を説明していますか（ゼカリヤ書 3:1-4）。

「ゼカリヤの象徴的な預言の中で、サタンは、主の使いの右に立って、汚れた衣を着た大祭司ヨシュアを訴え、主の使いが彼のためにしようとしていることに反対していた。これは、キリストがご自分のもとに引き寄せようとしておられるすべての人に対するサタンの態度を示している。」（祝福の山 146）

「〔サタン〕は、あやまちや罪があまりに大きいので、主はわたしたちの祈りをかえりみてくださらず、わたしたちを祝福し、救ってはくださらないと思わせようとする。わたしたち自身のうちには、欠点以外何も見られず、神にとって魅力のあるものは何も見られない。サタンは、むだだ、品性の欠陥を改めることはできないとわたしたちに告げる。わたしたちが神のもとに来ようとする時、敵は、祈ってもむだだ、あなたはあの悪事をしたではないか、あなたは神に対して罪を犯し、自己の良心にそむいたではないかとささやくであろう。しかしおたしたちは、『御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである』と敵に告げることができる（ヨハネ第一 1:7）。わたしたちが罪を犯した、祈ることができないと感じる時こそ、まさに祈るべき時なのである。恥じ、誇りをいたく傷つけられているかも知れないが、祈り、かつ信じなければならない。」（同上 144、145）

- b. どの神聖な原則が、罪に勝利し、神の召しを果たすための真の力の源を明らかにしていますか（ゼカリヤ書 4:6；ヨハネによる福音書 15:5）。

「神の選ばれた民として、わたしたちは世の習慣、目的、ならわし、あるいは流行を模倣するわけにはいかない。わたしたちは世俗的な型にならったり、成功の外面向的な表れにより頼んだりするがまま、やみの中に放置されているわけではない。主はわたしたちの力がどこから来るかを教えてこられた。〔ゼカリヤ 4:6 引用〕。」（教会への証 7 卷 90）

「神の聖霊がないならば、どんなにみ言葉の知識があつても役に立たない。聖霊を伴わない真理の理論は、魂を生かすことも、心を清めることもできない。聖書の戒めや約束をどんなによく知っていても、神の靈がその真理を心に深く刻みこませなければ、品性は変えられない。聖霊によって、目が開かれるのでないならば、人は真理と誤りとを見分けることができず、サタンの巧妙な誘惑におちいってしまう。」（キリストの実物教訓 387）

「聖霊という大きな無限のたまものの中には、天のすべての資源が含まれている……喜んで受けさえするならば、だれでも聖霊に満たされるのである。」（同上 394、395）

3. 違った種類の宮

火/3月17日

- a. 建設されるべき最も重要な宮を挙げなさい。そして、それはだれによってですか(ゼカリヤ書 6:12, 13, 15; エペソ人への手紙 2:19-22)。

「キリストご自身が築かれた土台の上に、使徒たちは神の教会を建てた。聖書の中で、神殿建設の姿は、しばしば教会の建設の例として用いられている。ゼカリヤはキリストを、主の宮を建てる『枝』にたとえている。彼はまた、異邦人がこの仕事を助けることについて述べている、『遠い所の者どもが来て、主の宮を建てることを助ける』。またイザヤは、『異邦人はあなたの城壁を築くと、述べている(ゼカリヤ書 6:12、15、イザヤ書 60:10)。

ペテロはこの宮の建設について書き、『主は、人には捨てられたが、神にとって選ばれた尊い生ける石である。この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、靈の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストにより、神によろこばれる靈のいけにえを、ささげなさい』と言っている(ペテロ第 1:2:4, 5)。

使徒たちは、ユダヤ人の世界と異邦人の世界という石切り場で、土台を築くための採石の仕事をしていた。」(患難から栄光へ下巻 303)

- b. 神の警告にもかかわらず、民は自分たちが捕囚となる前に何をしていましたか(ゼカリヤ書 7:8-14)。
- c. 神はそれにもかからわず、機会につぐ機会を提供することによって、どのように長く忍耐する憐れみのほとばしりを示してこられましたか(ゼカリヤ書 8:7, 8, 13-17)。

「神の民が地で誉れを受け、神のみ名の栄えとなることがはじめから神のみこころであったように、それは今でも神のみこころであった。神は長い捕囚の年月の間に、彼らがふたたび神に忠誠をつくす機会を、幾度もお与えになったのである。耳を傾けて学ぼうとする人々があった。また、苦難のただ中にあって、救いを見いだした人々もあった。これらの人々の多くは、帰還する残りの民の中に加えられるのであった。」(国と指導者下巻 204)

[ゼカリヤ書 8:3、7、8 引用]「こうした約束は、服従を条件にしたものであった。イスラエルの人々の、捕囚前の特徴となっていた罪は繰り返してはならなかった。」(国と指導者下巻 306)

4. 慰め(活気づけ)の時が必要

水/3月18日

- a. いま歴史上のこの時に、わたしたちはどこに焦点を合わせるべきですか。なぜそれがそれほど必要なですか(ゼカリヤ書 10:1, 2)。

「今日、神の教会の信徒たちは、すべての靈的成長の源であられる神との強いつながりを持っていなければ、刈り入れの時に備えていることにならないであろう。」(患難から栄光へ上巻 52)

『『春(後)の雨の時に、雨を主に請い求めよ』。通常の季節に従つた雨が降るのに満足して安んじてはならない。それを求めなさい。種の成長と完全は、農夫にかかっているのではない。神だけが収穫を実らせることができる。しかし、人の協力が要求されている。わたしたちのための神の働きは、わたしたちの頭脳の活動と、信仰を働かせることを要求している。わたしたちは、恵みの雨がわたしたちにのぞむことを願うならば、心を尽くして求めなければならない。自らの身を祝福の通路に置くすべての機会を活用すべきである。キリストは、『ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである』と言われた。教会の会衆は、キャンプミーティング、家庭教会の集まり、また魂のために個人的な働きがある機会はみな、神が前の雨と後の雨を与るために定められた機会である。

しかし、だれもこれらの集まりに出席することで自分の義務を果たしたと考えてはならない。単に開催されるすべての集会に出席するだけでは、それ自体魂に祝福をもたらすことはない。全体集会や地元の集会に出席するすべての人が天からの大きな供給を受けるというのは不朽の法則ではない。状況は、恵みの雨の豊かな注ぎのために好ましいように見えるかもしれない。しかし、神ご自身が、雨が降るようにお命じにならなければならない。であるから、わたしたちは嘆願するのに怠慢になるべきではない。」(牧師への証 508, 509)

- b. この地からの下で起こる驚くべき光景を述べなさい(ゼカリヤ書 12:8)。

「実のない木々が地をふさぐものとして切り倒されるとき、偽りの兄弟の群衆が、真実な者から区別されるとき、そのときこそ、隠されていた者が明らかに見えるようになり、キリストの旗印の下にホサナを伴って並ぶ。臆病で自己を信頼してこなかった人々が、公にキリストと真理のために自ら宣言する。教会の中で最も弱くためらっていた人々がダビデのように一自らやろうと望み、果敢に立ち向かうであろう。神の民には闇が深くなるにつれ、ますます星は明るく輝く。サタンは激しく忠実な者を悩ます。しかし、イエスのみ名によって、彼らは勝ち得て余りある者として出て行くのである。」(教会への証 5巻 81)

- a. 永遠にあらわれる美しい会話を一つ述べなさい (ゼカリヤ書 13:6)。

「イエスは、十字架の傷がついた手をお示しになる。彼は、この残酷な行為の傷跡を永久におとどめになる。ひとつひとつの釘のあとは、人間の贖罪の驚くべき物語と、そのためにわれた高価な値とを語るのである。」(初代文集 304、305)

- b. キリストは、いつ、どのように、オリブ山にもどって来られますか。またどのような記念的な出来事が明らかにされますか (ゼカリヤ書 14:4,5; ヨハネの黙示録 20:7, 12; 21:2, 10)。

「[天使が説明した:]『聖徒は聖なる都にいこい、千年の間王として祭司として支配する。それからイエスは、聖徒とともにオリブ山に降りて来られる。そして、山は裂けて神のパラダイスが基をおく大きな平原となる。』」(初代文集 120)

「千年期の終わりに、栄光の王であられるイエスは、光のような輝きをまとって、聖都からオリブ山の上に下って来られる。ちょうどこのお方が復活の時に昇天されたと同じ山である。このお方の足が山に触れると、それは二つに裂け、一つの非常に大きな平原となり、神のパラダイス、エデンの園がある聖都を受け入れる場所が用意される。それは人の罪の後、引き上げられていたのであった。今、それは地上から取り除かれたときよりも、美しく、栄光に満ちて、都と共に下ってくる。神の都は降りてきて、そのために整えられた巨大な平原の上に落ち着く。それから、イエスは贖われた万軍に囲まれた都を後にして、ご自分の道を天使の大群に随行される。恐るべき尊厳のうちに、このお方は死せる悪人を呼び出される。彼らは自分たちの長い眠りから目覚める。なんという恐ろしい目覚めであろうか!」(霊的賜物 3巻 83)

個人的な復習問題

1. 神の約束された「火の城壁」を心に描いて、いつわたしはこのお方の保護を感じましたか。
2. なぜわたしの前にわたしの罪をひけらかすサタンの攻撃を効果的にはねつけることができるのですか。
3. 神のご臨在に、体の宮に宿っていただく以上に命にかかわる重要なことは何ですか。
4. 後の雨を受けるために、重要不可欠な要求のいくつかをあげなさい。
5. イエスの足が再びオリブ山に立つのはいつですか。

マラキの最後の訴え

暗唱聖句：「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。」（マラキ書 3:3）

推薦文献： 国と指導者下巻 303-321;
教会への証 7巻 45-50

「悪を行なう人々には、来たるべき審判の日と、すべての罪人を速やかに滅ぼされる主のみこころについて、厳肅な警告が発せられた。しかしだれひとりとして、希望を与えられずに放置されてはいなかつた。マラキの審判の預言には、かたくなな人々に対して神と和らぐようにという招待が伴つていた。」（国と指導者下巻 308）

I. しばしば見過ごしにされる欠点

日/3月22日

- a. 利己的な貪欲に向かうどの傾向について、わたしたちは有罪かもしれませんか（マラキ書 1:8）。

「多くの人々は、単に気持ちや、嗜好、目を満足させるために必要でない支出にふける。その時にみ事業はそのように使われたその資金を必要としており、神の僕たちのある者たちは貧しい身なりをし、働きにおいて、資金の欠乏のために活動ができなくされているのである。御使は言った、『彼らのなすための時間はまもなく過ぎ去る。彼らの働きは自己が偶像であることを示しており、それに対して彼らは犠牲を払っている』。自己がまず満足させられなければならない。彼らの気持ちは、『わたしは弟の番人でしょうか』である。警告につぐ警告を多くの人々は受けてきたが、注意を払わなかつた。自己が主要な対象であり、そのために、すべてのものがひざまずかなければならぬのである。」（教会への証 1巻 115）

- b. 今日の社会の文化的な習慣に対してまったく対照的に、神は結婚という優しく神聖な誓約をどのようにご覧になりますか（マラキ書 2:12-16; ヘブル人への手紙 13:4; マタイによる福音書 19:4-6）。

「相互の幸福を増進するように研究なさい。相互の愛と忍耐が必要である。そうするならば結婚は愛の終局ではなく、出発点となる。」（ミニストリー・オブ・ヒーリング 333）

- a. マラキ書 3:1-3; ヨハネによる福音書 2:13-16 の預言の成就を説明しなさい。

「宮をきよめることによって、イエスはメシヤとしてのご自分の使命を公表し、その働きにはいられたのであった。……けがれた商売のそうぞうしきにつつまれていたエルサレムの宮の庭は、肉欲やきよくない 思いがはいりこんでけがれている心の宮をそのままあらわしていた。宮を世俗の売る人、買う人からきよめることによって、イエスは、罪のけがれ、すなわち魂を堕落させる世俗的な望み、利己的な欲望、悪習慣などから心をきよめられるご自分の使命を宣言された。」(各時代の希望上巻 185, 186)

「神はご自分の僕たちが、自分自身の心の道徳的な構造について熟知してほしいと願っておられる。これを実現するために、神はしばしば苦惱の火が彼らを襲い、彼らが精練されることをお許しになる。…

神の民の清めは、彼らの苦しみなく成し遂げることができない。神は苦惱の火がかすを焼きつくすこと、価値のある者たちから世俗を分離することをお許しになる。こうして純粋な金属が輝き出るためである。このお方はわたしたちを一つの火から次へと通らせ、わたしたちの眞の価値を試される。もしわたしたちがこれらの試練に耐えられないならば、悩みの時にはどうなることであろう?もし繁栄や逆境が、わたしたちの心の中に偽り、誇り、あるいは利己心を発見するなら、神がすべての人の働きを火で試し、すべての心の秘密をあらわになさるとき、わたしたちはどうすることであろう?」(教会への証 4巻 85)

- b. 神の民が神を忘れるなどを譴責されるいくつかの方法を挙げなさい。また、神から盗むとは、真に何が含まれていますか(マラキ書 3:5-8; ヤコブの手紙 1:27; ルカによる福音書 12:15; 箴言 3:9,10)。

「わたしたちは自分の財産をもって神を尊ぶことを、細心の注意を払って決意しなければならない。それから、わたしたちは何ものにも、このお方が受けるべき什一や献金をこのお方から盗むよう誘惑されではならない。わたしたちは人々への愛の行為と、また神がわたしたちに惜しみなく与えて下さることに対する神への感謝の表現において、知的で、組織的で、継続的でなければならない。これは非常に神聖な義務であり、偶然にまかせたり、衝動や気分に支配されることを許すことはできない。わたしたちは規則正しくいくぶんかを神のみ事業のためにとつておき、こうしてこのお方が要求なさる部分を盗まれないようにするのである。わたしたちはこの地上にもっと持とうとして、天の宝をあきらめる。これはこうむることを容認できない損失である。もしわたしたちが神の祝福を受けられるように生きるなら、このお方の繁栄のみ手がこの世の事がらにおいても共にある。しかもしもこのお方のみ手がわたしたちに反するならば、このお方はわたしたちのすべての計画を打ち倒し、わたしたちが集めるよりも早く散らすことがおできになるのである。」(同上 5巻 271, 272)

- a. 忠実に仕一と自由獻金がもどることから生じる祝福をいくつかあげなさい。またこのことを遅らせるのを避けるべき必要を説明しなさい（マラキ書 3:10-12）。

「臨終での慈善は、キリストがご自分に従う人々に要求しておられるものではない。それは生きている者の利己心を免除しない。最後の瞬間まで自分の財産を固く握りしめている人々は、み事業に対してよりは、死に対してそれを明け渡すのである。損失が絶えず起こるであろう。銀行が倒産し、財産は非常に多くの方法で消失する。多くの人々は何かをしようとするが、問題を先延ばしにし、サタンは資金がまったく金庫に入らないよう妨害するために働く。それは神に戻される前に失われ、サタンはそうすることで大喜びするのである。

もしあなたが自分の資金で良いことをしたいのであれば、直ちにそうしなさい。さもないとサタンがそれを手中にして、こうして神の働きが遅らせられる。多くの場合、主がご自分のみ事業を進めるために彼らの資金を扱うよう、兄弟たちに道を開いて来たとき、サタンの代理人が、兄弟たちが自分たちの資金を確実に二倍にすることができるという何らかの企画を提示してきた。彼らは誘惑に手を出し、彼らの資金は投資され、そしてみ事業も、そしてしばしば彼ら自身も、一ドルたりとも受け取ることがないのである。」（教会への証 5 卷 154）

- b. わたしたちは自分自身に関する痛々しいほど正確な、どの記録が確実に除去されることを確認しようと決心するべきですか（伝道の書 12:14；イザヤ書 65:6, 7）。
- c. いのちの書に名前があるほかに、何が神の忠実な子供たちについて神の記録の中で行いを明らかにしていますか（マラキ書 3:16；詩篇 56:8）。

「神の前に、『覚えの書』が記されているが、それには、『主を恐れる者、およびその名を心に留めている者』の善行が記録されている（マラキ書 3:16）。彼らの信仰の言葉、彼らの愛の行為は、天に記録されている。ネヘミヤは、このことについて、次のように言っている。『わが神よ、……わたしを覚えてください。……神の宮……のためにわたしが行った良きわざをぬぐい去らないでください』（ネヘミヤ記 13:14）。神の覚えの書には、すべての正しい行為が永久に記されている。誘惑を退けたこと、悪に打ち勝ったこと、あわれみの言葉をかけたことなどが、忠実に記録されている。また、すべての犠牲の行為、キリストのために耐えたすべての苦しみや悲しみが記録されている。」（各時代の大争闘下巻 212, 213）

- a. 神はご自分の忠実な民に対して、どの喜びを表現しておられますか。また、わたしたちは自分たちの品性と行為の中に、どのようにその喜びを反映することができますか（マラキ書 3:17; マタイによる福音書 25:34-40）。

「心が失望や悲しみという重荷を負っている心に同情するとき、手が困窮している人に伸ばされるとき、裸な者が着せられるとき、旅人があなたの客間の席やあなたの心の中の場所に歓迎されるとき、天使たちは非常に近く来て、天では応答の旋律がそれに答える。正義、憐れみ、慈善の一つ一つの行為は、天で旋律を奏でる。御父はご自分の御座からこれらの憐れみの行為をする人々をご覧になり、彼らをご自分の最も大切な宝として数えられる。」（教会への証 2 卷 25）

- b. わたしたちはまもなく明らかにされようとしている悪人と義人の区別をどのように知ることができますか（マラキ書 3:18; ヨハネの黙示録 22:11, 12）。

「『天は神の義をあらわす、神はみずから、さばきぬしからである』と預言者は言っている（詩篇 50:6）。シナイ山から雷鳴と炎の中で、人生の指針として宣言された神の義 であるあの聖なる律法が、今やさばきの規準として人々に示される。その手が石の板を開くと、火のペンでしるされたかと思われる十誡の言葉が見える。その言葉は、はっきり書かれていて、だれでも読むことができる。記憶が呼びさまされ、すべての人の心から迷信と異端の暗黒が払いのけられて、簡単で理解しやすく、権威に満ちた神の十の言葉が、地上の全住民の前に示される。

神の聖なる要求をふみにじってきた者たちの恐怖と失望とは、描写することができない。主は彼らに神の律法をお与えになった。彼らは、自分たちの品性をそれと比較して、まだ悔い改めて改革する機会のあるうちに、自分たちの欠点を知ることができたはずであった。しかし、世の支持を受けたいために、彼らは律法の教えを捨て去り、またほかの者にも、それを犯すように教えたのである。彼らは、神の民が安息日を汚すように強制してきた。今となっては、彼らは自ら軽べつした律法によって罪に定められるのである。彼らは、もはや弁解の余地はない…

もう遅い。彼らは偽の安息日の真の性質を知り、自分たちがこれまで砂の土台の上に築いていたことを知るが、もう遅いのである。彼らは、自分たちが神と戦っていたことに気づく。牧師たちは人々を、天国の門へ導くと公言しながら、滅びに導いていたのである。」（各時代の大争闘下巻 417, 418）

- a. 悪を行う人々の最終的な運命を述べなさい (マラキ書 4:1-3)。
- b. 神は小預言者たちから、どの最終的な訴えを送っておられますか (マラキ書 4:5, 6)。

「神から引き離すのは世俗性と利己心である。天からのメッセージは反対を引き起こす性質のものである。キリストのための忠実な証人と真理は、罪を譴責する。彼らの言葉は火打石のような心を碎く槌のようであり、かすを焼きつくす火のようである。真剣で断固たる警告のメッセージが絶えず必要である。神は義務に対して忠実な人々を持っておられる。正しい時にこのお方は、エリヤの働きと同様な働きをなすために、ご自分の忠実な使者たちをお送りになる。」(教会への証 5 卷 254)

「親自身が、全心をこめて、主の律法に従って歩かないかぎり、子供たちに服従を命じることはできない。この点に改革が必要で、深く、広い改革が行なわれなければならない。親に改革が必要であり、牧師に改革が必要である。彼らの家庭に、神が必要である。もし彼らが変化を希望するならば、彼らの家庭に神の言葉を入れ、その勧告に従わなければならない。それは、彼らに語る神の声であり、それに絶対に服従すべきであることを、彼らは子供たちに教えなければならない。親は忍耐深く子供たちを教え、神を喜ばせるためには、どのように生きるべきかを、やさしく、たゆまず教えなければならない。こうした家庭の子供たちは、無神論の詭弁に立ちむかう準備がある。彼らは、聖書を彼らの信仰の基礎として受け入れた。彼らは、懷疑論の潮流に流されない土台を持っている。」(人類のあけぼの上巻 147, 148)

「よく治められたクリスチヤンの家庭は、キリスト教の真実性を支持する力強い論証で、無神論者もこれに反論できない。…もし、クリスチヤンといっているものの家庭が、宗教的に正しい型のものであれば、それは、非常によい感化を与える。彼らは、真に「世の光」となる。」(人類のあけぼの上巻 149)

個人的な復習問題

1. 結婚していてもいなくても、わたしはどのように結婚のための神のご計画を促進することができますか。
2. わたしはどのような方法において、わたしのうちにされる神の精練の工程の証拠を見ることができるでしょうか。
3. 天の法廷で述べられている三つの記録の書を挙げなさい。
4. 天の知的存在者たちの心に、わたしはどのように喜びをもたらすことができますか。
5. この終わりの時代に求められている最も力強い説教は何ですか。

第一安息日献金



安息日1月3日

ホンジュラス・シグアテペケの本部

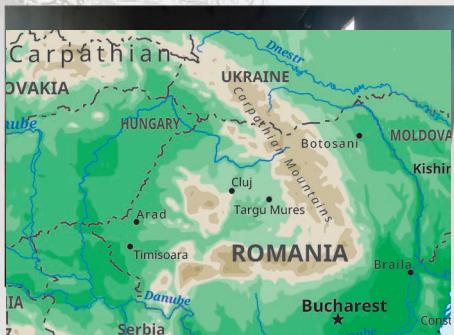
今こそ、緊急に必要とされている事務所、会議室、また伝道学校の教室のための場所を援助するわたしたちのチャンスです（4ページ参照）



安息日2月7日

世界総会福祉支部

至る所で災害が増しています。主はわたしたちすべてに、痛み苦しむ人々の救済を助けるために何かできることをするよう求めておられます！（30ページ参照）



安息日3月7日

マラニョン・ピアウイ・フィールド（AMAPI）本部、ブラジル

この成長しているフィールドが発展するために、管理事務室、宿泊施設、公会堂が必要とされています。実現させましょう！（51ページ参照）